

TOHOKU AKINDO DESIGN | 2017 | SUMMER | CONTENTS

とうほく あきんど でざいん 2017夏 | 目次

02	カサマのマサカ
28	東北の力こぶ
48	広告とフィクション
52	雑草からバクチー
54	風と花と
55	他人のふんどしで相撲をとる
61	コンケンジのお買い物
TAD GALLERY — 46	
夏秋の運勢 ROSEBUD TAROT READING — 58	
僕が住む村 ポクシユー村 — 56	
協働クリエイター略歴 — 60	

連載 SERIES

04	東北に生きる人と、かたち
12	仙客万来 人をつなぎ場を創るそして仙台の文化へ
30	仙台市だつて悩んでいます
38	外国人の視点から地域と出会う MEET THE NEW LOCAL

特集 SPECIAL FEATURE

とうほく あきんど でざいん 2017夏

2017年8月 発行

編著者=とうほくあきんどでざいん塾

〒984-8651 仙台市若林区卸町2-15-2 卸町会館5F TRUNK内/http://tohokuakindodesign.jp/

とうほくあきんどでざいん塾=コーディネーター:長内綾子/松井健太郎|アシスタント:深村千夏

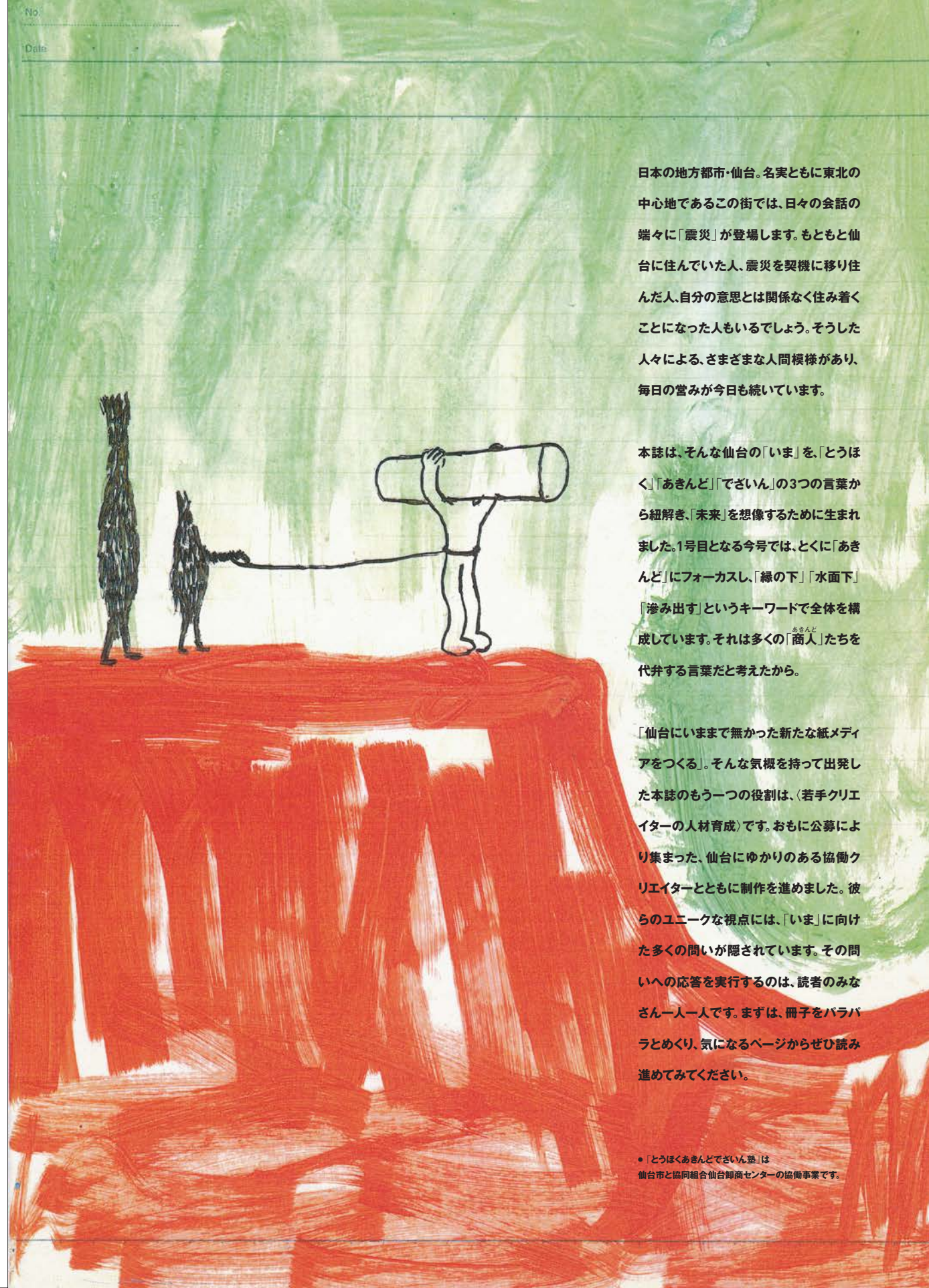
発行人=仙台市経済局産業振興課/協同組合仙台卸商センター

©2017 Tohoku Akindo Design Juku, Published in Japan All rights reserved.

※落丁本・乱丁本はお取り替えます。本書の無断複写・複製(コピーなど)は著作権法上の例外を除き禁じられています。代行業者などの第三者による本書の電子的複製も認められておりません。

なお、この本についてのお問い合わせは、下記宛てにお願いします。お問い合わせ先:とうほくあきんどでざいん塾[Tel: 022-235-2161]

ドローイング:工藤寛海+渡辺作郎[United]



日本の地方都市・仙台。名実ともに東北の中心地であるこの街では、日々の会話の端々に「震災」が登場します。もともと仙台に住んでいた人、震災を契機に移り住んだ人、自分の意思とは関係なく住み着くことになった人もいるでしょう。そうした人々による、さまざまな人間模様があり、毎日の営みが今日も続いています。

本誌は、そんな仙台の「いま」を、「とうほく」「あきんど」「でざいん」の3つの言葉から紐解き、「未来」を想像するために生まれました。1号目となる今号では、とくに「あきんど」にフォーカスし、「緑の下」「水面下」「滲み出す」というキーワードで全体を構成しています。それは多くの「^{あきんど}商人」たちを代弁する言葉だと考えたから。

「仙台にいままで無かった新たな紙メディアをつくる」。そんな気概を持って出発した本誌のもう一つの役割は、〈若手クリエイターの人材育成〉です。おもに公募により集まった、仙台にゆかりのある協働クリエイターとともに制作を進めました。彼らのユニークな視点には、「いま」に向けた多くの問いが隠されています。その問いへの応答を実行するのは、読者のみなさん一人一人です。まずは、冊子をバラバラとめくり、気になるページからぜひ読み進めてみてください。

• 「とうほくあきんどでざいん塾」は仙台市と協同組合仙台卸商センターの協働事業です。

マサカ

カサマの

第1回

ホッピーを
仙台で呑むのマサカ

KASAMA no MASAKA



profile

石渡 美奈 さん

ホッピービバレッジ株式会社代表取締役社長。愛称は「ホッピー・ミーナ」。売上高を4倍以上に伸ばした、百年を超える同社の「中興の祖」。



profile

笠間 建 さん

電話級アマチュア無線技士。MBA。特技は射撃(中隊表彰)或いは写真撮影。仙台では珍しい、マーケティングを生業とするコーラ愛好家。

仙台で増殖中の TOKYO DRINK

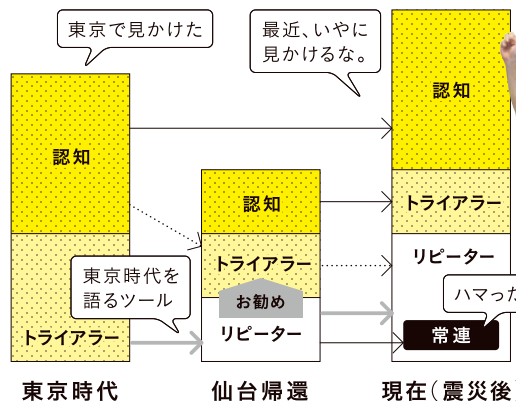
「こ、ホッピー置いてありますな。」
カサマは老式参横丁某店で牛タンを焼きながら、ふとホッピーが店にあることに気づきました。ホッピー！
飲まずにはいられないッ！
「じゃあ黒ホッピー追加で。『ナカ』は冷えていますか？」「ジョッキも冷えますよ。」店員はそう告げると、ホッピーと氷の入っていない焼酎の入ったジョッキを持ってきたのでした。『三冷(さんれい)』……！
「ホッピーって美味しいの？」
慣れた手つきでホッピーを勢いよく焼酎に加えるカサマの様子を見ながら、不意にAYAKOが質問します。
「ええ。東京時代に覚えて。」



遠い日々を懐かしむカサマを見て、AYAKOは意外そうに言います。
「えー、私も東京に住んでいたけど、ホッピーなんて呑まなかったよ。」
「東京の中でもどちらかというと東の方の飲みものですかねえ。」
東京か、何もかも皆、懐かしい。だが東日本大震災後に仙台で見かけるようになったような？現に私も牛タン食いつつなぜかホッピーを……はっ、マサカこれは『トライアル・リピート・モデル』……！

説明しよう!!!

トライアル・リピート・モデルとは、商品が市場に普及する際の、消費者への浸透プロセスをモデル化したものである。消費者が商品を試行(トライアル)し、その一部が再試行を繰り返し、「リピーター」が育っていく。それがトライアル・リピート・モデル。そう、カサマは仙台でホッピーを飲む行為を、一種のトライアル・リピート・モデルと認識したのである！



仙台は東京在住経験者が多い。一部は東京で「トライアル済み」で、リピーターになる素地が元々あった？

ホッピー(Hoppy)

ホッピービバレッジが販売する「清涼飲料水」。1948年に東京赤坂で誕生。「焼酎との割り飲料」のバイオニアとして東京の酒文化を担った「TOKYO DRINK」。



ホッピー仙台普及のナゾを解くべく、ホッピービバレッジ株式会社代表取締役社長の石渡美奈さんに、港区赤坂の本社で突撃インタビューを敢行しました。

復興の歴史の裏に ホッピーあり

カサマ お久しぶりです。2年前の同窓会の時以来ですかね？(注：カサマは石渡社長のビジネススクール時代の半年先輩に当たる。)

石渡社長 久しぶり！来てくれてありがとー！で、何で急にホッピー？

カサマ 仙台で最近ホッピーをよく見かけるようになったんですよ。確かホッピーは一種の「東京ローカル」で、あえて積極的に広域の販路拡大はしない戦略でしたよね？

石渡社長 今もその戦略よ。確かに、震災直後は仙台周辺のビールメーカーさんが被災した影響もあったのか、ビールの代替品としてホッピーを結構東北に出荷したみたい。

カサマ 仙台周辺は大手ビール工場が集中していますからね。今では国分町でホッピーののぼりとかポスターとかよく見かけます。



石渡社長 あと、一時期の復旧・復興工事の際に首都圏から多くの作業員が仙台に行ったらしく、その人達がホッピーを国分町で注文するようになったのも、定着した一因かも。

カサマ 何だかそれ、戦災復興期に受け入れられたホッピーの、歴史を圧縮したような話ですね。

石渡社長 ホント。

ハレの記憶の飲みもの

カサマ でも、もともと東北には根強いホッピーファンがいたようで。秋田に、その名も「ホッピーハウス」

という店があるぐらいで。

石渡社長 東北にも結構ファンがいるのよ。本当にありがたいことです。

カサマ これは一つの仮説なのですが、東北地方は過去「出稼ぎ」で東京に来ていた方が多い。ホッピーは労働者の飲みもの。そのときにホッピーを覚えたのではないかと。

石渡社長 あり得る説ね。以前お客様に「ホッピーがハレの日の飲みもの」と言われた方がいて。東京時代の、自分にとってのハレの日の味だと。

カサマ その感覚は、私にもあります。ホッピーを飲むと、人生の夢でもあった東京のビジネススクール時代の記憶を運んでくれるというか。

あなた色に 染まる飲みもの

カサマ 一方で、最近若い方もホッピーを受け入れているようです。

石渡社長 ホッピーは約70年の歴史の中で何度かブームがあったけど、根本的にはホッピーとお酒が別々になつて提供されるという、独特のスタイルに理由があると思うているの。

カサマ そういえば普通のサワーとかは完成品として出され、案外この手のものないですね。

石渡社長 例えば「三冷(さんれい)」とか、一番美味しい飲み方はメーカーの責任としてお伝えする。でもお酒とホッピーは別に出るから、工夫の余地やその人ごとのスタイルを出しやすいのよ。

カサマ 老舗商品だけど案外クリエイティブで、新しさが生まれやすい。

石渡社長 そうそう。「マイホッピー論」をみんな持てる。ホッピーは変わらなくても、時代の変化の中でその都度解釈され、自然と立ち位置が決まってくと思うの。そうしてお客様がホッピーを育ててくれるのね。



次回予告 ホッピー仙台浸透のナゾを解いた(解いていない)カサマ。次に現れる街のマサカは何か？次回！カサマのマサカ2！「新世紀製麺宣言！その名は文佐！！麺帝、陸奥の大地に降り立つべし!!!」



東北に生きる 人と、かたち

第1弾

青森+山形編

私たちが住む東北には、

独自の風土が息づく「かたち」があります。

そして、その「かたち」を時代に刻む人々がいます。

だけど、その姿はまだ見えない場所にあつたりするのです。

だからこそ、今ここにいつまでも残したい東北を記します。

あなたが知らぬ東北の妙、ここにあり。

文・及川恵子

デザイン・阿部順子

撮影・嵯峨倫寛

01 青森県黒石市
Kボッコ株式会社
ボッコ靴

02 山形県真室川町
工房ストロー
卵つと



MADE
IN
TOHOKU

01

ボッコ靴

— Kボッコ株式会社／青森県黒石市 —

天然ゴム100%の完全手作り雪上用長靴

津軽地方に生きる人々と共にある

日向ぼっこのようにあたたかい長靴

青森県の内陸に位置する黒石市。八甲田山の麓で、果実を豊かに実らせる大地が広がる場所だ。ここには、そんな自然と生きる人々に長年寄り添ってきた長靴がある。天然ゴムだけで作られた「ボッコ靴」だ。不思議な名前その長靴は、「雪の上でもあたたかく、まるで「日向ぼっこ」をしているようだ」と例えられるほど、寒い冬に耐える人の足元を温め、特にリンゴ農家やマタギに長

く重宝されてきた。雨を凌ぐためだけのものではない。北の暮らしが生み出した生活の品だ。江戸時代からの伝統的建造物が立ち並ぶ「こみせ通り」。その近くに「Kボッコ」という靴屋がある。その昔、何人もの職人がボッコ靴を作り出した店だ。東南アジアから届くゴム板を裁断し、組合せ、完成させる。しかし、材料が稀有であることや70年代後半に安価なゴム長靴が流通したこ

とから、'80年代には完全にその姿を消してしまった。国内で上質な長靴が簡単に手に入ることの代償として、陽だまりの長靴は消えた。現在の店主、工藤勤さんは、その当時毎日のように「ボッコ靴はないのか」と声をかけられたことをよく覚えていう。切実な声は、復活の歩みを強める動力になった。そこからボッコ靴が復活を果たすのは、10年後のこととなる。



スタンダードな「ロングタイプ」(左・16,000円)や現在のファッションにも合わせやすい「半長タイプ」(中央・14,500円)のほか、かんしき装束用のリボンが付いた「短長タイプ」(右・16,000円)がある
※サイズは22.0〜28.0cmまで0.5cm刻み。28.0cm、リボン追加は+1,000円

MADE IN TOHOKU



1「昔はものづくりがそんなに得意じゃなかったんですけどね(笑)。でも、子どもの頃に職人さんの作業をよく見ていたのは覚えています」 2 約20個のパーツから成り立つ3種のポッコ靴。のりしろも考慮しながら、ハサミひとつで型どおりに切り出し接合していく 3 余ったゴムは溶かして接着剤として使用。そうすることですべてが融合し、何年経ってもゴムが剥がれることはない

4 使う道具はローラー、木べら、ハサミの3つだけ。木型には、現代人の足に合わせるためテープを貼りサイズを調整する 5 ポッコ靴を愛用しているリンゴ農家の山口さん。「雪の日はポッコ靴の出番。履き心地もいいし、あたたかいからね」 6 山口さんが愛用するポッコ靴。「丈は長く、甲の部分も厚く。おしゃれにしたいと、オリジナルで作ってもらいました」。お義父さんの靴にはイニシャルの「Y」を付けた



Kポッコ株式会社
青森県黒石市横町1-2
☎ 0172-52-2181
営業時間/9:00~18:00
定休日/不定休
<http://www.k-bocco.com/>

未来はまったく明るくない
もしかしたらもう終わりかもしれない

雪国で使われていた長靴は、全国で愛される存在に。しかし現在は、再び材料が入手困難となり注文を停止している。生産再開の目処は立っていないが、「それでも」と待つ人は数多い。「ケガをしている方や義足の方もお店にいらっしやるんです。いくら時間がかかっても、待っている方にはできるだけの技術で作ってあげたいですよ」。別のゴムでは替えがきかない。野生的なビジュアルながら、その正体は実に繊細なのだ。「100パーセントの天然ゴムじゃないと、ポッコ靴とは言えない。もうここで途絶えるかもしれないね。これがどんな靴だったかという資料は、使ってくれた方が伝えてくれたらいいかな。工藤さんの言葉には、さみしさの中にどこか潔さすら感じる。しかし、もしも途絶えることがあったとしても、一度復活したポッコ靴、必ずやその二度目があるだろう。ここにしかない風土が生んだ美しいかたちは、簡単には消えないものだから。

MADE IN TOHOKU

「靴の復活は時代錯誤だったかも。
でも待っている人がいたから」



店内奥にある4畳半ほどの作業スペース。成形しやすいようゴム板に熱を加えるため、夏場でもストーブが欠かせない

過去を手繰ることが未来に繋がる
ポッコ靴の歴史を紐解く10年間

「だいたい探したんですけど、どれだけ調べてもポッコ靴の歴史に繋がる情報が見つからなくて…。どうしたものかな」と思いましたね(笑)」と振り返る工藤さん。ネットを頼りにポッコ靴の情報を集め出したものの、調べれば調べるほど「こんなに難しいものなのか」と大きな壁に行き当たった。「待っている人がいるとしても、ポッコ靴の復活なんて今の時代に逆行してるんじゃないのかなって思ったりしましたよ。ただ、どうしても自分の感覚に引っかかるものがあつたんです」。

その後、偶然にもポッコ靴を作っていた職人との出会いが待っていた。また、昔使われていた倉庫に木型が残されていたり、「ポッコ靴用のゴムを卸していた」という人に出会ったりと、すべてのきっかけが一本の糸を紡ぐように繋がっていく。作り方は、職人の頭の中にある。一つひとつの話を聞き取りながら型紙を起こし、木型や金型を整えた。頭の片隅にあった想いを少しずつ形にしながらも、闇を進むような作業に没頭していた工藤さんに当たる光は徐々に強くなっていき、ポッコ靴は10年越しに目の目を見ることになった。朗報は、市内だけでなく隣接する弘前市や県内にも広まった。そして県外からも大きく注目されることになる。

MADE IN TOHOKU

「下ごしらえの方法から知らないと、
“作る”ってことにならないと思うんです」



稲藁や藁藁など、高橋さんが作った品では材料が並ぶ作業部屋。捨てる部分のないものは用途別に分けてストックしておく

長い冬が培った東北の藁文化が
実用品の美しさを形作る出発点に

農家の冬は忙しい。春を迎える前に、農具の手入れは欠かせない。作物を植えるためには下準備だつて必要だし、ましてや昔は、履物も紐も農作業に必要なものはすべて稲藁で手作りしていたのだから。そうして東北に長く厳しい冬が訪れるたびに、藁の文化は育まれ、いつしか玩具や飾り物、籠など暮らしの品にも応用されていくようになる。卵つとは、そんな過程の中で生まれたもののひとつだ。

その昔、卵はお見舞いやお祝い品に用いられるほど貴重な食材。「大切な人のために、大事に丁寧に届けたい」。そんな想いに、藁が身近にあった米どころの風土や時代背景が掛け合わされて形となった。「きつとそういう過程と形を、地域のデザインと呼ぶのでしょね」と語るのは、農家のかたわら藁文化の知識や技術を精力的に広める工房ストロー主宰の高橋伸一さん。「卵つとは、作る人それぞれの違いと工夫があるんです。そんな中で、あの人の作る形はかっこいいね」とか「この結び方だと卵が落ちにくいよ。なんて教え合いながら、少しずつこの地域ならではの意匠になったんでしょね」。

地域性や機能性、そして運びやすさや理にかなった美しさ。卵つとは、そのすべてが混じり合った「用の美」を成しているのだ。

MADE IN TOHOKU

MADE
IN
TOHOKU

02

卵つと

工房ストロー／山形県真室川町

農家発、美しく卵を守るパッケージ



藁卵タイプ(右)
木卵タイプ(左) 各2,592円
※P.43に掲載の「卵つとミニ」は1,296円

MADE IN TOHOKU



1 藁仕事の基本となる「縄ない」。素早い動きで、2つの藁の末をしっかりと絡み合わせ交差させていく 2 作業のほとんどが手を使うため、道具はハサミやキリなどいたってシンプル。自作の横づちは、藁を叩きしなやかさを出すための道具 3 藁の選別は見たい目を左右する大事な下準備。よく目を凝らすと緑色や淡いオレンジ色など微妙な色合いの違いが、

4 「以前は華奢なデザインだったんですけど、今はもうちょっとどっしりさせたくて。昔のを見ると恥ずかしくなったりもしますよ」 5 馬や犬、猫をかたどった愛らしい形のオーナメント（各540円）。インテリアはもちろん、プレゼントにもぴったり 6 「蛍かご」（4,536円〜）。編まれた藁の隙間からこぼれる光が、柔らかに室内を照らし出す



工房ストロー
山形県最上郡真室川町
大字平岡885
☎ 090-3125-2500
http://kobo-straw.com/
※作品はオンラインショップより購入可

MADE IN TOHOKU



「結び目は横に置く。そうすると卵がきれいに見えると思いませんか?」。見栄えに対する追求にはゴールがない

包装としての機能と美しい佇まい
そして先人たちの知恵をつむぐ手

作業部屋には、自身が育てた様々な種類の藁が並べられている。その中で卵つとに使われるのはもち米の藁。長く、ピンとまっすぐ。そしてしなやかであることがその理由だ。また、見栄えが整うように太さと色味を揃えた藁を使うことも肝心なのだという。

ボートのように形作った藁の束。その中央に卵を詰め、スツと取り出した一本の藁をぐるりと巻きつけ固定する。卵は藁でしっかりと包まなければならぬが、美しい佇まいを犠牲にはできない。そのバランスを細かく見極めながら、高橋さんは5個の卵を丁寧に納めていく。「こつちが引つ込むと、向こうが膨らむ（笑）。全体の形とか藁の厚み、とにかくいろんなところに注意しないといけないんです」。

卵つと本体を作る工程には、一本の藁で「結ぶ」という動作がない。結ぶと一点に力が掛かって切れてしまうため、その代わりに藁を「ねじる」のだ。作り方の中には、力学を用いた手法もしっかり落とし込まれているから驚きだ。そんな先人たちの知恵は、高橋さんの滑らかな手の動きを通して形になる。藁を選び取る。束ねて、折り曲げる。巻く。くるくると。まるで「手そのものが道具だ」と言わんばかりに軽やかに工程を紡いでいくその両手に、想いを込めながら。

MADE IN TOHOKU

万

来

approach BAN

商業・国際交流・文化芸術・居住機能などの多様な都市へ

本市中心部においては、東北や都市圏交流の拠点として、商業・業務機能や国際交流機能、文化芸術機能、居住機能などの多様な都市機能と交通環境が調和して、様々な相乗効果が生まれてきました。このような中、中心部の商店街は本市のみならず東北の商業の中心的存在として、都市としての賑わいや魅力的な都市空間の創出に寄与してきたところです。

※「仙台市中心部商店街将来ビジョン」(仙台市、2010年)より抜粋

「多くの人が次から次へとやって来る仙台であり続けてほしい」
そんな願いを込めて、私たちはこの特集のタイトルを決めた。
実のところ、我々がそんなことを願わなくても仙台はにぎわっている。
なにせ「東北を代表する100万都市」だ。
中心部にも郊外にも、大型商業施設が進出し出店も相次いでいる。
そっちこっちで建設が進むマンションやホテル。
東日本大震災後、その勢いは衰えるどころか以前より加速した。
そんな様子にアツけにとられる一方で、
何かが置き去りにされているとの思いが拭えない。
それは「仙台の文化」と呼べるものを育み、維持する力ではないのか。
私は2011年4月、新聞社勤めのために離れていた故郷・仙台に戻ってきた。
被災地取材を続けるかたわら、急激に変化する
仙台市中心部の姿を見て、胸にわだかまる思いがあった。
一時のにぎわいではなく、多くの人が魅力を感じて
やって来る街であり続けるには、文化の厚みが必要ではないか。
「れっきとした伊達の文化があるじゃないか。藩政時代からの産業だってある。
伊達政宗の生誕450年の節目に何を言っているのか」。そんな反論が聞こえてきそうだ。

あるいはこんな声もあるかもしれない。
「七夕に青葉まつり、定禪寺ストリートジャズフェスティバルだってある。
市民が参加するイベントがとれだけあると思っているのか」と。
しかし、そんな外見の華々しさと文化の内実との隔たりが
大きくなっている気がしてならない。
中心部に古くからある商店街はかつての活気を失い、
全国で展開するチェーン店が幅を利かせ、
大にぎわいの仙台駅前には首都圏で目にする商業施設がひしめく。
そこに「仙台の文化」、例えば「商人文化」を感じとれるだろうか。
伊達文化の一つとして誇らしげに語られることも多い
伝統工芸にしても、後継者不足や職人の高齢化に悩まされている。
私の祖母の実家も仙台筆筒を手がける家具屋だったが、何年も前に廃業を余儀なくされた。
それでも、じっと目を凝らせば、今の仙台の文化を形づくり、
次世代に受け継ぐと地道な取り組みを続けている人たちがいる。
この特集では、仙台てお笑い文化とジャズ文化を育む活動を続けている2人に光を当てたい。
この2人に共通するのは、人々が集い楽しむ「場」を創り出し、
それを維持・発展させようという姿勢だ。
さらに、それは仙台市中心部のまちづくりにもつながっている。
人的ネットワークの構築に事業の継続と発展――。
落語とジャズ、いわゆる大衆文化を根付かせようとする2人の姿を追っていると、
図らずも地場の中小企業にも通ずる課題が浮かび上がる。
文化を育て、文化の厚みをつくり出すとは、どんな営みなのか。
お笑いジャズに視点を据えて切り込んでみたい。

approach RAI

市民・来訪者が求めている新たな愉しみを加える

まずは来てもらうところからを“おもてなし”と捉え、中心部商店街へ足を運びたいくなるような情報を広く届けること。交通アクセスの利便性向上への対応を進めていく。来訪者を惹きつける魅力、中心部商店街を訪れる目的となる要素など、既存の資源を強化、発掘してアピールしていく。

新たな魅力として付加していく商店街だけでなく、地元のあらゆる人が一緒になって関われるようにする。

※「仙台市中心部商店街将来ビジョン」(仙台市、2010年)より抜粋

approach SEN

仙台市中心部商店街将来ビジョン

豊かな自然環境と風趣ある歴史・文化をもつ仙台市は、東北地方の中核都市として、また杜の都の名で親しまれる都市として着実な発展を遂げてまいりましたが、本市が将来にわたって都市間競争の中で選ばれ続ける都市として、持続的に発展していくためには、都市の魅力づくりが重要となっており、仙台市のブランド力の向上が求められています。

※「仙台市中心部商店街将来ビジョン」(仙台市、2010年)より抜粋

仙

【特集】仙客万来

人をつなぎ場を創る
そして仙台の文化へ

客

approach KYAKU

中心部商店街の魅力をさらに高め集客力の向上を図る

仙台市が将来にわたって都市間競争の中で選ばれ続ける都市として、持続的に発展していくためには、中心市街地の活性化が不可欠であり、その一つの柱となるのが中心部商店街である。中心部商店街の魅力をさらに高め、集客力の向上を図ることにより、中心市街地の活性化に寄与することを目的に、将来の実現すべき方向性を示した仙台市中心部商店街将来ビジョンを策定する。

※「仙台市中心部商店街将来ビジョン」(仙台市、2010年)より抜粋

魅知国仙台寄席にかけける情熱と想い

仙台の地に笑いの花を。
寄席という場を耕す決意。

白津 守康

1961年、仙台市一番町に生まれる。近所の子どもたちと一番町の商店街を遊び場として育つ。不動産業などを営みながら笑いなどの大衆芸能の企画・運営をする株式会社 BBI を経営。「モノは満たされているが、仙台には心を満たすのが必要」と言い、芸人が本気の勝負をする寄席づくりをめざしている。

東北の芸能の聖地へ

お笑い文化「不毛の地」に種をまく

仙台は「お笑い文化不毛の地」と言われている。

疑問や反発を覚える方もいるだろう。ただ、この言葉が地元紙の見出しを飾るほどには知られた説だ。河北新報で今年1月に掲載された仙台のお笑い事情を伝える連載に、「不毛の地」との言葉があった。

記事にはこうある。「仙台は演劇、音楽活動が盛んな一方で、お笑い文化は根付かず『不毛の地』と呼ばれてきた。」(河北新報2017年1月19日夕刊)

記事自体は仙台のお笑い文化を支えようと奮闘する人たちの姿を追ったもので、彼らへの共感に満ちている。そんな記事でも触れなければならないほど、定着



b

してしまった言説と言っている。「不毛の地」がまことしやかに言われるようになった発端は何か。

「背景にあるのは、1990年代の吉本興業の仙台進出と撤退です」。当時、仙台商工会議所青年部に所属し、この間の動きを間近で見てきた白津さんはこう指摘する。

地方進出を推し進めていた吉本興業が仙台に事務所を構えたのは1995年。しかし、ライブなどの事業が振るわずわずか数年で撤退した。

吉本の撤退と「不毛の地」説。私は仙台で生まれ育った者として、反発と同時に思い当たる節もある。自分がおもしろいと感じたら周囲を気にせず遠慮なく

笑うことがなかなかできない。私自身もそうだ。積極的に笑いをとりに行く姿勢にも欠けている。

しかし、こうも思う。吉本だけがお笑いではないだろう。声高らかに笑わなくとも、おずおずと笑ったり、笑みをたたえたりして静かにおもしろがったっていいじゃないか。仙台なりの

お笑いの楽しみ方があっていい。実際に、「不毛の地」説などものともせず、仙台のお笑い文化を耕し続けている人たちがいる。その一人が白津さんだ。

白津さんは2010年6月から毎月1回、土曜日の午前と午後、仙台市中心部のクリスロード商店街に面した映画館「桜井薬局セントラルホール」で開催してい

る「魅知国仙台寄席」の席亭(主催者)だ。「魅知国」とは、東北地方の古くからの呼称「みちのく」にかけて、「魅力あふれる国である東北を知る」との意味が込められている。

魅知国寄席では毎回、落語はもとより漫才、講談、マジック、曲芸などさまざまな芸が披露され、客席は笑いに包まれる。出演者はすべて仙台や東京を拠点



c

に活躍するプロの芸人たちだ。150近くある座席が完売になることも珍しくない。客層は50代、60代が中心だが、20、30代とおぼしき男女の姿も混じる。終演後には、次回の寄席の前売り券を買い求める客が狭い通路に列をなす光景が見られることもある。

あるときの魅知国仙台寄席で、客の呼び込みにチケットのもぎりにと忙しく動き回る白津さんを捕まえて、こんな質問をぶつけてみた。「仙台は本当にお笑い不毛の地なんですかね？」

「一時、食い入るように私の目をぐいと覗き込んだ白津さん。確信に満ちた口調で言い切った。『今は不毛の地ではないでしょう』」

人と人が集うこと。これが大衆芸能の醍醐味であり、魅力なんですよね。

●白津さんの芸能観について

仙台の真ん中に笑いの場を

一番町を文化の発信地に

“笑いおこし”

商店街という地で町おこしならぬ

白 津さんを駆り立てているのは、お笑いへの愛、とりわけ落語に對する愛着だ。

ただ、単なる落語好きと捉えては、その実像を見誤ってしまう。白津さんの情熱のもう一方の源泉には、まちづくりへの思いがある。自分が生まれ育った一番町を仙台の文化の発信地にして、かつてのにぎわいを復活させたいという熱い思いだ。そうでなければ、毎月寄席を運営することなどできるものではない。

仙台三越の目と鼻の先、一番町四丁目商店街から少しだけ国分町側に入った場所に白津さんのルーツがある。今もこの地で不動産業などを営む一方、落語などの大衆芸能に携わる株式会社BBIを経営し、拠点としている。ちなみに社名には、「Basis（基本）」「Brain（頭脳）」「Imagination（想像力）」という表の意味に加えて、「Bunchō（国分町）」「Banchō（一番町）」「Inatora（虎横稲荷）」という地域にまつわる愛称に

ちなんだ意味が込められている。

生まれてこの方、白津さんが見つめ続けてきた街も大きく変わった。「21世紀に入ってから商店街の移り変わりが激しくなったね。1階の路面店で営業していた商店主たちが不動産オーナー業に転じた。パチンコ屋さんや地元資本ではない飲食店が増えましたね」

「昔は三越の並びのロッセリアの場所が中華料理屋さん、北海道さんこプラザの所はほんこ屋さん、ドトールの所は人形店……」と、かつてあった店をそらんじてみせるときの白津さんの目は、近所の悪ガキたちと商店街を遊び場に駆け回っていた少年時代を幻視している。

そんな白津さんが、お笑いに直接かわるようになったきっかけは、マンネリ化していた商店街の歳末感謝祭にテコ入れて、中心部の6つの商店街に人を呼び込み、活気を取り戻すためだった。

『仙台で寄席をやりたい』 六華亭遊花との 出会い

2009年12月、街角で笑いを楽しむ

「仙台お笑いコンテスト（仙台笑コン）」をスタートさせる。

東京や仙台などで活動する若手お笑い芸人が頂点を競う。

仙台を拠点とするストロングスタイルやニードル、

最近テレビで売り出し中のみやぞんがメンバーのANNZEN漫才など、その後活躍の場を広げていくことになる若手が参加した。

仙台笑コンは2015年まで続いた。

仙台笑コンを始めた前後は、白津さんにとってその後の生き方を左右する出来事が相次いだ時期だった。

色物と言われる漫才や奇術などの芸に興味を持ち、もともと寄席が好きだった白津さんは、

近所にあるおてん三吉を借りて寄席を開催することなどもしていた。

そんな折、東京のテレビ局で長くお笑い番組を手がけてきたことで知られるプロデューサーと知己を得る。

「その人に芸協（公益社団法人落語芸術協会）の事務局の方を紹介してもらい、『仙台で寄席をやりたい』という話が現実味を帯びたんです」

その頃、後に白津さんと二人三脚で魅知国仙台寄席を運営していくことになる落語家との出会いがあった。

仙台を拠点に東北弁落語で活躍する

六華亭遊花さん（当時は川野目亭南天）だ。

六華亭遊花（ろっかていゆうか）

岩手県遠野市出身。1997年、故・今野東さんが立ち上げた東方落語に入門し、東北弁による落語の世界に導かれる。当時の芸名は川野目亭南天。2012年に三遊亭遊三入門に入りプロの落語家として六華亭遊花を名乗る。2016年10月、初めて新宿末廣亭に出演し、東北弁落語を披露した。



a／席亭として舞台上に笑みを浮かべながら視線を注ぐ白津さん。

b／桜井薬局セントラルホールで開催している「魅知国仙台寄席」の風景。毎回さまざまな公演テーマを設け、楽しめる内容を工夫している。

c／会場に掲げられる演目。



定着した月に一度の 魅知国仙台寄席

魅知国仙台寄席が産声を上げたのは仙台三越の地下にあったフードコート。

そのときの様子を、六華亭遊花さんは落語の本题に入る前に語る話である「まくら」の中で語ってみせることがある。

「パーテーションに仕切ってる向こうから、カチャカチャカチャカチャって食器の音だの、子どもの『お母さーん』って声が聞こえて大変だったの」

身近な東北弁で語られるそんなドタバタ劇に、寄席の客は引き込まれる。でも、これは本当の話だろうか？

そんな私の質問に白津さん、苦笑まじりてこう語る。「いや、大げさじゃないんだよ。ついでに言っと、ここは笑っていいところなんですって呼びかける、なんてこともしたんです。これ毛の地」と言われる所以か。

「幸福だから笑うのではない、笑うから幸福なのだ」
フランスの哲学者・アランより

●白津さんのお笑い観について

女性が1人でも来れる寄席 大人を目指して

してもらえばそれっていいという考え方だ。

だからこそ、7年以上に渡り、一度も途切れることなく毎月1回の寄席を開催し続けることができたと言える。実は東日本大震災直後の4月2日に予定されていた寄席は当初中止が考えられた。「寄席なんかやっていない場合じゃないだろう」との思いからだ。



バスに乗って東京から師匠たちも駆けつけてくれた。ふたを開けてみれば50人近い入り。「いつものように寄席に行き、落語を聴くことで安心感を得たい」ということだったのかもしれないね。遊花さんは、こう振り返る。



a／柔らかな雰囲気と表腹に、その日は寄席に対する熱い気持ちにあふれている。b／7月公演「二ツ目サミット」に出演した、嘶家の面々。終演後に気さくに会話にのめりこんでくれるのもうれし。c／毎週火曜日の朝にTBCラジオで放送される「ラジオ魅知国寄席」では、毎回寄席のアンケートをもとに2人の掛け合いが繰り広げられる。

魅知国仙台寄席は、今年7月で90回目を迎えた。すっかり仙台で定着したと言えるだろう。長続きの理由は三つある。一つはマンネリに陥らない工夫。毎回テーマを設け、手を変え品を替え、芸を楽しむ企画を練っている。例えば今年7月の寄席のテーマは「二ツ目サミット」。(落語の階級の二ツ目、上から真打ち、二ツ目、前座、前座見習いがある)の若手を招き、客が有望株を発掘する楽しみを提供した。ペダランの師匠たちも毎回のよう登壇し、仙台にいなながら東京の寄席の雰囲気も味わえる。

二ツ目は「女性が1人でも来れる寄席」をめざしていること。ここでも遊花さんの存在が大きい。三ツ目は白津さんと遊花さんの二人三脚だ。魅知国仙台寄席に毎回出演し、根強いファンを持つ遊花さんが軸になり、寄席の看板になっていることが活気につながっている。「表舞台の中心は遊花さん。裏方は僕。車の両輪ですよ」と白津さん。そんな2人がずっと抱き続けてきた夢がある。仙台に定席・常設の寄席を開くことだ。

下駄履きで、ふらっと立寄る 寄席の定席を仙台に

今 回の特集の取材依頼のため白津さんのもとを訪れた6月上旬、私は以前から耳にしていた定席の話を出して尋ねてみた。「そう言えば、定席をつくる話はどうなりました？」。そう簡単にできるものではないだろう。まだまだ先の話かなと思っていた。

完成予想図を見ると、筆太の寄席文字で落語家の名前を書きだした看板がずらりと並び、これぞ寄席というたたずまいだ。場所は仙台三越からすぐ近くの白津さんが生まれ育った土地。へ

肝心。1500円〜2000円程度の気軽に入れる価格設定にしたのだから。手本とするのは、桂文枝さんの呼びかけて2006年に大阪にできた天神繁昌亭方式。企業や個人から寄付を募り、場内の天井に寄付者の名前を書いた提灯を掲げる。運営費を寄付で賄い、木戸銭(入場料)を抑える仕組みだ。「手頃な木戸銭でなければ、気軽に入ることはできません」と白津さん。へ

をたたえたまちづくりの核になりそうですね。私がつぶやくと、厳しい表情をして戒めるようにこう言った。「定席ができた10年はあつという間に過ぎるでしょう。でも、その先どう続けていくかが大事。後を継いでくれる人材を育てないといけない。後継者は血がつながっていいというものでもないし、お笑いを理解してなければいけない。しかし、お笑いしか知らない

ようでは務まらない。これから担う人材育成が大きな課題ですよ」花座は夢の実現ではあるが、ゴールではない。花座を定着させ、東北の芸能の拠りどころ、仙台の街のにぎわいの中心になることができれば。来春以降、白津さんが取り組んできたことの真価が問われることになる。翻ってそれは私たち仙台に暮らす者が文化を支え得るか、その実力も問われることになる。



お笑いが街の波及効果へ 笑う“街門”には 福来たる。

「うん、いよいよ来春にできる予定になってね」と白津さん。予想外の答えに驚く私に完成予想図などの資料を見せてくれた。

寄席の名前は「花座」。世阿弥が著した『風姿花伝』の「花」に因む。

あるとき、白津さんが能楽・和泉流狂言師・人間国宝の野村萬さんから「芸事には花が必要」として教えられた。寄席を東北の芸能の拠りどころ、「花」を咲か

一番町四丁目商店街から、かき徳・玉澤ビル手前の一方通行の道を国分町方向に入っていくと、現在はクッキー屋さんがある所だ。

定席があるのは東京、大阪、名古屋だけ。だけ。実現すれば地方都市での囃矢となる。白津さんはこもも期待する。笑いを発信する場ができることで、街の集客力が高まり、周囲の商店にも波及するのではないかな。お笑いの文化の場合、音楽や演劇など他の文化も呼び寄せる磁場になるのではないかな。

「仙台駅前とは違う、仙台の文化

常設 寄席 花座 誕生へ



「花座」完成イメージ図 ©提供：落語芸術協会仙台事務局

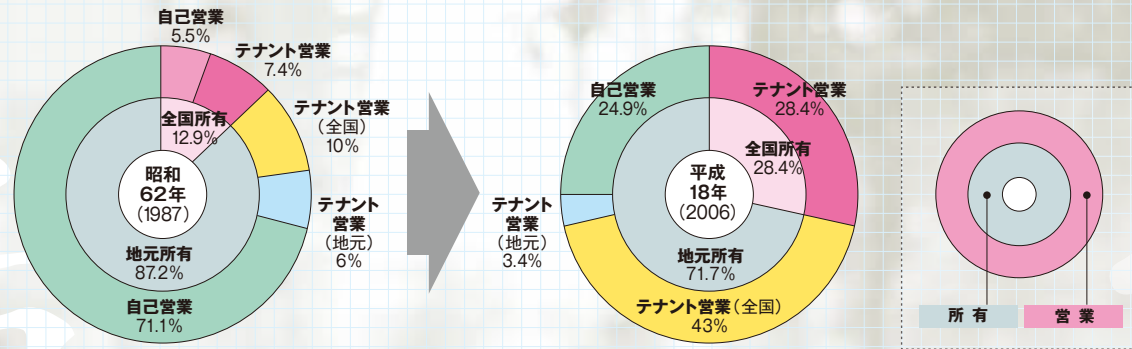
a／「花座」の看板として寄席を引っ張るのはやっぱり遊花さんだ。b／仙台にお笑い文化の花を咲かせ、文化の発信地をめざす「花座」は来春開業予定だ。

図A 中心部商店街の内部状況

土地・建物の所有と使用の分離が進む

- 流通構造・不動産構造の変化が、商店街の内部構造に大きな影響を与えている。
- 全国展開するナショナルブランド、ワールドブランドのショップを中心にテナント営業化が急速に進行している。
- 地元店営業＞テナント営業＞地元はビルオーナー化

〈一番町三丁目でのケーススタディ〉※営業形態は1階部分で判断。比率は店舗の間口の長さによる。



※「仙台市中心部商店街将来ビジョン」(仙台市、2010年、2-3. 中心部商店街の内部状況)より作成

表A 仙台市内中心部商店街の通行量調査結果

金曜日の通行量調査結果

- 平成28年に仙台駅前・東西自由通路の開通により通行量が激増している。
- 藤崎前と一番町通・四丁目は緩やかな下降傾向となっている。

金曜日(各年の5月下旬の金曜日に調査、平成23年度は東日本大震災のため中止) 単位: 人

	平成22年	24年	25年	26年	27年	28年
仙台駅・東西自由通路	44355	47762	38912	41077	34879	50595
藤崎前	36553	38776	38517	38453	36688	34714
カワイ・浅久前(一番町通・四丁目)	29719	27899	26448	29168	28932	26280

※各年度の「仙台市内中心部商店街の通行量調査結果」(仙台市、仙台商工会議所)より作成

表B 仙台市内中心部商店街の通行量調査結果

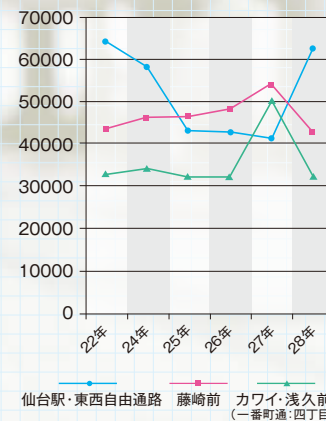
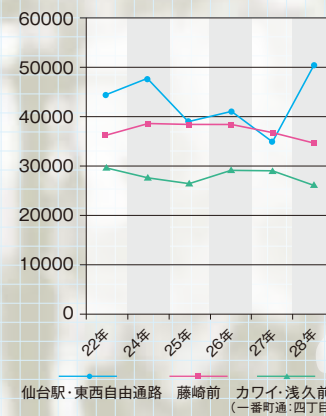
日曜日の通行量調査結果

- 平成28年に仙台駅前・東西自由通路の開通により通行量が平日、休日ともに激増。
- 新店オープンなどで仙台駅前の回遊性や集客力がアップしたことが大きな要因と考えられる。
- 平成27年の藤崎前とカワイ・浅久前の数値が急増しているのは、市役所前市民広場で開催されたイベントの影響による。そのため28年の通行量調査結果では、27年の数値を比較の対象とはしていない

日曜日(各年の5月最終日曜日に調査) 単位: 人

	平成22年	24年	25年	26年	27年	28年
仙台駅・東西自由通路	64332	58159	43338	42706	41512	62687
藤崎前	43752	46178	46654	48058	54298	42710
カワイ・浅久前(一番町通・四丁目)	33011	34405	32438	32559	50574	32477

※各年度の「仙台市内中心部商店街の通行量調査結果」(仙台市、仙台商工会議所)より作成



●一番町三丁目でのケーススタディ

土地・建物の所有と使用の分離 全国チェーンテナントの増加

仙台市郊外や周辺の市や町にできた大型商業施設に客を奪われ、空洞化した仙台市中心部の商店街。最近では仙台駅周辺に次々と進出した店舗にも客足が流れている。

仙台に暮らす人なら誰でも認識していることだ。仙台市や仙台商工会議所が公表している資料はこうした現実を裏打ちしている。

仙台市が東日本大震災の約半年前の2010年10月にまとめた「仙台市中心部商店街将来ビジョン」(以下「将来ビジョン」)は、策定に至った問題の所在をこう記している。「中心部商店街を取り巻く環境は、郊外型大型店との競合、中央資本の進出、全国展開のチェーン店の増加に加え、地下鉄東西線整備や民間の再開発の動向など、ここに至るまで大きく変化している。」

「将来ビジョン」には中心部商店街の変貌ぶりがわかるデータとして一番町三丁目为例示されている。地元の小売店が全国チェーンの店に追いやられていく様子を実感することはできるが、その動向を数値化したものはなかなか目にするのができないので、少し古いデータになるが掲載したい(図A参照。昭和62年(1987)から平成18年(2006)までの20年間で、地元の建物所有者が自ら店を営業している割合が大幅に減り、全国展開のテナントに取って代わられたことがはっきりわかる。さらに地元企業が所有する建物の割合も減った。

●仙台市内中心部商店街の通行量調査

激増する仙台駅前の通行量と減少傾向の一番町方面

仙台市と仙台商工会議所が毎年5月下旬に定点調査している「仙台市内中心部商店街の通行量調査結果」(表A、B参照)では、平成28年(2016)になって仙台駅前・東西自由通路の通行量が平日、休日とも激増し、反対に一番町方面が大きく減少している。この調査結果でも言及されているが、この年に東西自由通路が開通し、エスバル東館やバルコ2のオープンなどで仙台駅前の回遊性や集客力がアップしたことが大きな要因と見られる。中心部商店街が置かれた状況が厳しさを増していることがわかる。

ではどうすればいいか。「将来ビジョン」は「中心部商店街には、商業以外にも人が訪れるきっかけとなるポテンシャルがある」と指摘し、「まちの魅力を高めるための「サー」

例えば、次章で紹介する話に関連するが、現在、仙台でプロのジャズミュージシャンが日常的に演奏し、生活の資を稼げる場はあまりない。しかし、かつては演奏の場が数多くあり、在仙のミュージシャンが東京の

「将来ビジョン」には中心部商店街の変貌ぶりがわかるデータとして一番町三丁目为例示されている。地元の小売店が全国チェーンの店に追いやられていく様子を実感することはできるが、その動向を数値化したものはなかなか目にするのができないので、少し古いデータになるが掲載したい(図A参照。昭和62年(1987)から平成18年(2006)までの20年間で、地元の建物所有者が自ら店を営業している割合が大幅に減り、全国展開のテナントに取って代わられたことがはっきりわかる。さらに地元企業が所有する建物の割合も減った。

一線級と切磋琢磨する光景がみられた時代があった。ジャズ界では名を知らぬ人はいないあるベテランサクソフォーン奏者はこう証言する。「仙台で通用しなければ全国で通用しない」と言われていた頃があったんですよ」

ジャズという限られた世界の話ではある。しかし、文化の高みをめざす人がいて、周囲の人々がそれに呼応する状況が確かにあったのだ。今の仙台に暮らす我々にそのDNAが受け継がれていないとは思えない。

合資会社ウォーキン代表

木村 卓也
Takuya Kimura

本格ジャズライブにかける情熱と想い

最高の演奏の場をつくり
本物を楽しむ素地をつくる。

木村 卓也

1955年、福島県川俣町の江戸時代末期から続く呉服屋の次男として誕生。中学時代に兄が聴いていたジャズに魅せられ、若い頃はプロのトランペッターをめざした。国分町でジャズライブを聴かせる店を経営した後ステッキ専門店に転じたが、会場を借りるなどしてジャズライブの企画・運営を続け、一貫して一線級のミュージシャンを仙台に招いている。

ステッキ専門店が届ける 本格ジャズライブ。

学生時代から通っているレコード店でいつも気になるジャズライブのチラシがあった。「おつ仙台にも玄人衆をうならせるミュージシャンが来るんだな」。毎回そう思わせるラインナップだったからだ。ピアノの太石学に吉岡秀晃、テナーサクソスの峰厚介、ドラムの本田珠也——。腕の覚えの一線級ばかりと言っている。

問い合わせ先は「ステッキ専門店ウォーキン」とある。ステッキ屋さんとジャズの組み合わせが頭の中で整理しない。「台原のステッキ屋さんでね。会場を借りたり自宅を使ったりしてライブを開いてるんですよ」とレコード店主。

いずれにしてもこだわりの強い人なのは間違いないだろう。ステッキを振り上げて追い掛けられたらどうしようか。台原の静かな住宅街にある自宅兼店舗のドアを恐る恐る開けると、物腰柔らかな紳士が迎ええてくれた。

企画・運営し続ける情熱。
拘りのジャズライブ。

仕掛けるステッキ屋さんは聞いたことがない。それにステッキ専門店自体が珍しい。どんな人なのか興味が湧く。ジャズ業界にかかわりのある人に聞くと、「仙台でジャズを語るときに欠かせない人ですよ」との答え。ステッキ店を営みながら、毎年10回前後のライブを企画・運営している木村卓也さんだ。

“楽都”仙台でジャズ ライブを仕掛ける想い

パイプを仕込んだステッキまである。ちょうど、上品な高齢の女性が訪れてステッキの調整を頼んでいた。「売り上げの8割はインターネットでの販売ですよ。注文は北海道から沖縄まで、全国から来ますね」と木村さん。



20年前に現在の場所て店を開いたときからネット販売を中心に展開しているという。「家賃の高い街なかに店を構えるのは大変だし、当時はネット販売に乗り出しているステッキ屋がなかったんですよ」

パレードックスでの縁が
ライブを支え生み出す。

そんな木村さんが、なぜジャズライブを手掛けているのか。「実は1981年から10年ほど国分町でジャズのライブがでける店をやっていた。木村さんが訥々と語る。

店の名前はパレードックス。週1〜3回はライブを開催していた。深夜になると他の店での仕事を終えたバンドマンたちが三々五々集まってくる。ジャズミュージシャンのたまり場のような店だった。

店に入りしていた仙台や東京を拠点とするミュージシャンたちが、また別のミュージシャンを呼び、人脈が広がっていった。こうしてつながっていった縁が、木村さんが仕掛けるジャズライブを支えている。



WALKIN' PRESENTS JAZZ LIVE

本物のジャズの魅力を仙台に届ける

かつて仙台はジャズが盛んだった。

もちろん、その背景には戦後駐屯していた米軍の存在があるだろう。

プロのミュージシャンが「仙台のアルトサックスの第一人者」と認める

「戸祐三郎さんは、木村さんが経営するバラドックスに出演していた一人だ。

「1960年代の仙台は演奏の場が多くて、東京からも

売り出し中のミュージシャンが3カ月単位とか来ていました。

街なかを歩いてみるとそういうミュージシャンと

顔を合わせたリ、夜はジャムセッションをしたりしましたよ」

現在、すっかり有名になった定禅寺ストリートジャズフェスティバルが毎年開催されるなど、仙台は音楽が盛んな街と言われることもある。

確かに市民が演奏を披露して楽しむ場は増えた。

しかし、ことジャズに関する限り、

日常の中でより質の高いプロの演奏に親しめる場はめっきり減った。

木村さんが店を開いた頃、日常的にジャズのライブが聴ける店は3カ所あった。

すでに仙台のジャズ全盛期は過ぎていたが、ライブだけでなく、

ひと仕事終えたミュージシャンたちが深夜に

ジャムセッションを繰り広げることができたバラドックスは、

ミュージシャン同士が交流し、切磋琢磨できる貴重な「場」だった。

「こういう曲をやってほしいとか注文を付けたりはしなかったですね。

ミュージシャンが好きなように演奏してもらおうのいいと思って」と木村さん。

肩肘張らずに演奏できる場ができれば、

ミュージシャンはハイレベルなしつかりとした音楽をしてくれる、

それは聴きにきたお客さんの満足につながる。

家庭の事情でバラドックスを閉店し、ステッキ専門店に転身してからも

「ジャズをちゃんとやりたい人に場を提供したい」と、

年10回ほどのライブを企画・運営し続けている。

日程の調整やミュージシャンとの交渉、楽器の運搬や会場の準備――。

すべてを1人で行う。ときには自宅にミュージシャンを泊めることもある。

今も貫いているのは「ミュージシャンのやりたいように演奏してもらおう」スタイルだ。

7月初め、仙台市中心部にある「ジャズミープルース noLa」を会場にした

ライブは、木村さんの創り出す「場」がミュージシャン同士の出会いを導き、

新たな音楽を生み出していることを実感させるものだった。

アルトサックスの林「栄」とピアノの大口純一郎という

日本を代表するベテランミュージシャンが入ったカルテット。

以前、仙台で林さんのトリオの演奏を聴いた大口さんが

希望して実現した組み合わせだ。

ミュージシャン同士が望んだライブだけに一層演奏に熱が入る。

聴衆が「おっ」と思わず身を乗り出し、

ぐいぐいと引き込まれていくような演奏が繰り広げられる。

音に聴き入っていた私の耳に、ふいに木村さんの言葉がよみがえってきた。

「うわっ、すごい」と思う経験がないと自分の中に入っていないでしょ。

ジャズは難しいとか取つきにくいと思われがちだけど、

実力があってちゃんとやってるプロの演奏を聴けば、

なじみがなかった人でもジャズに親しむきっかけになると思うんですね」

ミュージシャンを信頼し、最高の演奏ができる場をつくる。

それは聴き手の耳を肥えさせ、音楽を楽しむ素地をつくる。

たとえ自前の会場がなくても、耕してきたネットワークを武器に

仙台のジャズ文化に厚みを加えるための木村さんの奮闘は続く。

生でこそ味わえる プロの凄味

白津 寄席をやっているとわかるのは空気分なんですよ。プロの人たちが出す空気がお客さんに伝わるから、どんなにいい落語のCDにもないものが味わえる。

木村 ジャズはアドリブですから同じ演奏はないんです。もちろん出来がいいときもあれば、悪いときもあるんですけど。出来がいいときはミュージシャン自身も乗りに乗ってすごい高みに達することがある。すると聴衆も真剣に聴いてくれるし、そういう中でミュージシャンの「瞬間のひらめきみたいなものが表れる。」

白津 寄席も同じですよ。
お客さんの乗りによつて高みが出てくる。

最近だと6月に松島の瑞巖寺の落慶法要の一環で行われた桂歌丸師匠の高座があったんですが凄かったです。ご存知のように体調を崩して入退院を繰り返していて、控室でもひどそうて、予定していた怪談は長いからもう少し短い断りとなって、「紺屋高尾（こうやたかお）」という、花魁と紺屋職人の恋愛話をやったんですが、これが絶品でした。落語には、お客さんの雰囲気をもてどんな断りをするか決める。

その自由さ、楽しさがありますね。



縁の下としての、やりがい語る 選択肢を増やして 面白くて格好いい仙台に。

Moriyasu Shiratsu X Takuya Kimura

やっぱり人集めは大変だ

木村 人集めは大変です。

もうその二言に尽きる（笑）。

白津 最近、若手の落語家がブームで。その中心になつていて桂宮治を呼んで独演会をやったんです。約300席ある仙台市シルバースターに40人くらいしか入らなくて。仙台では見事なまでに誰も知らない。

静岡の人からまだ席はありますか」って問い合わせがあつて、全然大丈夫です」って（笑）。もう死にたくなくてね。桂宮治に慰められた（笑）。「これはいけるぞ！」という落語家や芸人を見つけて、みなさんに聴いてもらいたいというのがあつて、

その思惑が外れるときがあるのが仙台です。

木村 だからと言って人を集めるために無料とか、思い切り安くするようなことはしないです。

白津 無料で配るようなことはしないです。それをやってしまうと、みんな慣れてしまつて

芸に対する正当な評価がでなくなる。

そこは我慢ですよ。一方で、人を入れたいと演者に申し訳ないし、やっぱり

最低限の舞台がつくれないうけです。



都市の良さはいろんな選択肢があること。

白津 来春、三越の近くに常設の寄席「花座」をつくるんですよ。ジャズもそうだけど、落語って緊張せずに観に行けるものだと思うんです。そういう場が普通に街の中にある。「仙台っておもしろいね。かっこいいステッキ屋があつたり、こっちは寄席があつたり」って。

落語家やミュージシャンが普通に街を歩いてる、そんな異空間をつくりたいですね。

木村 やつぱり日常的にライブをしたり、ミュージシャンが集まつたりできる空間がほしい。100人ぐらい入るスペースを共同で運営できないか、何年か前から考えてるんですけどね。ちゃんと音楽をやっている連中をちゃんと聴ける場所です。そこでコミュニティをつくつて、東京の連中と仙台の連中がセッションできれば、
仙台のミュージシャンの底上げにもなりますから。

白津 運営するのは大変ですけどね（笑）。いまやつて寄席も赤字だったリトントンだったリ。そこは脇で営業をとつてきたり、他の事業をうまくやつたりしてトータルで黒字にする。でも、いくらお金があつてもできるものではないですよ。寄席やライブを商売と考えると稼ぐことを念頭に置いたら続かない。

ハートというか、お客さんの笑つて顔を見ることに喜びを感じる、
そういうモチベーションがなければ難しいでしょう。本当に東北は今からつくっていくという感じですから、やりがいがありますよ（笑）。

週5日は、世界戦。



輸出額、年間約6,000億円。
東北にも、日々世界を相手に働く人たちがいる。

コピー／工藤 拓也 写真／嵯峨 倫寛 デザイン／菅野 恵

100万都市のお名刺事情

テキスト 工藤 拓也 / デザイン くらさわ かな / イラスト 白柳 敦子 / 協力 仙台市

マッキー(以下、マ) うめざわさん。どうしたんですか、そんなに名刺いっぱい広げて。
うめざわ(以下、梅) 最近ね、「仙台市さんって、なんでこんなに名刺がバラバラなんですか?」って驚かれることがすごく多くて...。
マ 言われてみれば、決まったデザインってありませんね。でも、それってそんなに驚かれるようなことなんですかね?
梅 この仕事を担当するまでは、私もそこまで気にしてなかったんだけど、やっぱりちょっとさかこ悪いよね?「仙台市のクリエイティブ産業を盛り上げていきます!」とか言ってるクセに名刺がバラバラってのは。
マ そっか。私は外部の方に名刺を渡す機会がそんなにないけど、うめざわさんの仕事だと多そうですもんね。
梅 そう。しかも相手は、クリエイターさんはじめデザインに関心の高い方ばかりで。
マ ...あーその悩みうまく解決してくれそうな人たち、私知ってますよ!

梅 え? ホント? 紹介して! 今度お昼ごはんごちそうするから。
マ やった! じゃ連絡しておきますね。
名刺は買うもの
くるわ(以下、く) グラフィックデザイナーのくるわです。サクサクです。よろしくお願いします。
梅 (食べたい...) 早速なんですけど、本題に入らせてもらっていますか?
ス はい、もちろんです。マッキーさんから少し話は聞いていますが、名刺がバラバラでお困りなんですよね?
梅 そうなんです。と、いかにバラバラかを見ていただく前に、お話ししておかないといけないことが二つあります。
ス はい、お願いします。

梅 まず一つ目。市役所では原則として名刺は支給されません。
ス え? 名刺つくるお金を自分で負担しないといけないんですか?
梅 そうなんです。担当する仕事によっては名刺を持つ必要がなかったりもして、そういうことも関係しているかもしれませんが、どうして自己負担なのか、はっきりとした理由はわかっていません。
く なるほど。でも逆に、名刺を配るのが仕事みたいな方もいらつやいますよね? 営業的な?
マ ええ、企業や他自治体など外部の方に会う機会が多い仕事では、支給されることもあるみたいです。
ス さすがにそうですよ。仕事すればするほどお金を払わないといけないっていうのは、おかしな話だし。
梅 はい。で、二つ目はデザインを自分で決められるということ。
く 「決められる」というのは、いくつかパターンがある中から選ぶということですか?
梅 そうする場合もありますが、まちまちですね。公式のデザインがあるわけではないので。

くるわ

グラフィックデザイナー。白飯を食べると眠たくなるため毎日3食パン。

スポンジ

コピーライター。人の話を聞くのが好き。洗剤を薄めて使うほど肌が弱い。

うめざわ

仙台市職員。クリエイティブに市を盛り上げることが仕事の係長。

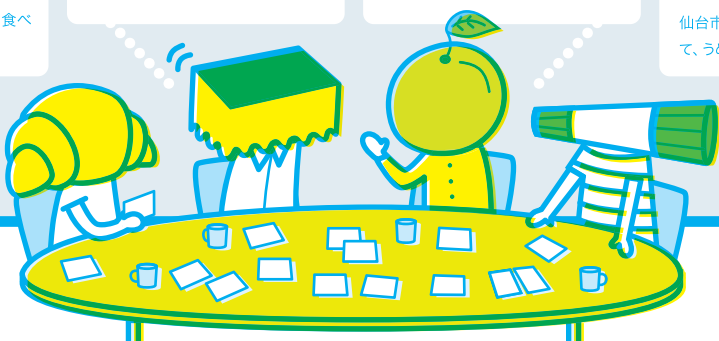
マッキー

仙台市職員。隣の隣の島からやってきて、うめざわと喋るのが日課。

仙 台 市 だ っ て 悩 ま っ て い ます。

リサーチ編

東北唯一の政令指定都市、宮城県仙台市。組織が大きくなると、抱える課題が多様になるのは官でも民でも同じこと。淡々と仕事をこなしているように見えて、職員たちにもいろいろ悩みがあるようです。



名刺の現状



背景が華やかな名刺。

縦向きの名刺もあります。

顔写真入りのもも。

マークやキャラクターも様々。



写真 嵯峨 倫寛

バラバラ名刺

梅 前置きが長くなりましたが、ほんとです。もっとサクサク進めてください。

梅 (おいしそうなのに怖い...)



※東西線開通に合わせて、2015年に使用されていた名刺です。

CASE 1
上は担当部署である交通局の方、下は教育局の方の名刺。異なる部署を連想させるマークは、名刺をもらった相手を混乱させてしまう原因となる。それが全庁的にPRが必要な事業のものであっても、入れるのは避けるべきだろう。マークを統一する場合は、市のミッションなど部署が特定されないものにすることが必要。



CASE 2
6枚すべて、同一部署に所属する方々の名刺。「伊達政宗」と「杜の都仙台市」、大きく2種類のロゴマークが入っているものに分けられる。さらに、それぞれのマークごとに、サイズや色使い、入る位置がバラバラ。仮に事業特性から1つのマークに統一することが難しいとしても、見え方を揃えることで部署としての統一感を出すことができる。



梅 はい。やってみましょう。

梅 (私もほめて...)

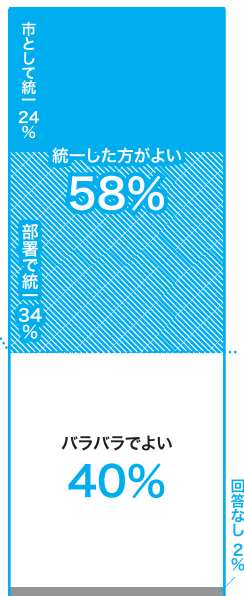
梅 (私もほめて...)

※過去5年間で使用された名刺です。

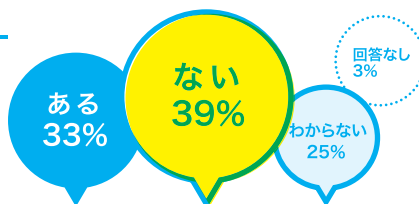
Q5 組織として名刺のデザインが統一されていないことをどう思いますか？

「統一した方がよい」と答えた人の理由抜粋：表面はフロントも含めた統一デザインとし、裏面は各部署のPR用に自由に印刷可とするルールを設けるのが適当であると考える。／局によってPRしたい事業が異なることから、一定の基本デザインは定めるにしても、ロゴなどを自由に入れる余地は残した方がよいと思う。／もし名刺のデザインの統一化を図るのであれば、ベースは統一して、季節や部署によって違うデザインを採用するなど、さまざまな仙台のPRができるような遊び心を加えてみるのもいいかもしれない。

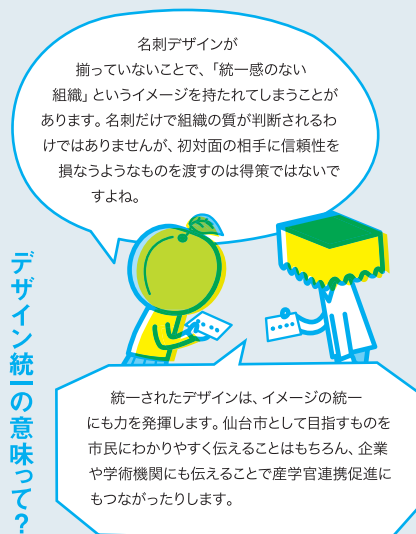
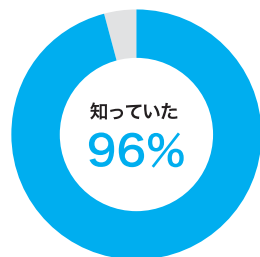
「バラバラでよい」と答えた人の理由抜粋：課・係によって発信したいメッセージがあると思うのである程度自由でよいと思う。／市として統一のデザインもあると便利だが、一方で部署が持っているロゴやイベント・キャンペーン周知のために期間限定で使いたいデザインもある。用品封筒のようにいくつかのパターンから選べるようにしてはどうか。／個性があることより、市民に覚えてもらいやすい。／個性が出るし、そもそも名刺は部署内や名前、連絡先がわかれば問題ないから。



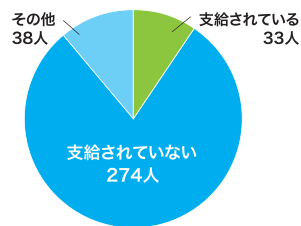
Q6 名刺のデザインが統一されていないことで、何かデメリットがあると思いますか？



Q4 仙台市では職員によって名刺のデザインがバラバラなことはご存じでしたか？



Q2 名刺は職場から支給されていますか？



Q2-1 印刷はどのように行っていますか？

部署内にあるプリンターで出力	印刷会社に発注	その他	回答なし
134人	96人	46人	69人

Q2-2 年間いくらくらいかかっていますか？

～3,000円	3,001円～10,000円	10,001円以上	回答なし
205人	54人	11人	75人

Q3 名刺デザインはどのように決めましたか？

厳密には決められていないが、部署内で使用されているものを参考にした	140人
自分で作成した	89人
他部署が作成した様式を使った（環境局のwake up!名刺など）	28人
所属部署で決められている様式に従った	50人
その他	34人
回答なし	4人

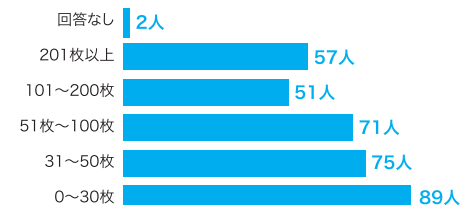
仙台市職員の方

345人

に聞きました。

経済局 101人 / 都市整備局 51人 / 文化観光局 46人 / 消防局 23人 / 健康福祉局 22人 / 建設局 15人 / 環境局 14人 / 青葉区 12人 / 若林区 11人 / 総務局 11人 / 危機管理室 1人 / 教育局7人 / まちづくり政策局 6人 / 財政局 6人 / 市民局 5人 / 子供未来局 5人 / 宮城野区 3人 / 太白区 2人 / 泉区 1人 / 人事委員会事務局 1人 / 水道局 1人 / 交通局 1人

Q1 現在の部署で、名刺は年間にどれくらい使用しますか？



お金も時間もかけない徹底した低コスト志向

梅 先日、名刺の製作費用を自己負担している職員がほとんどだとお話ししましたが、やはりその通りの結果でした。345名中274名なので、79%にもなります（Q2）。また、年間の使用金額では3000円以下が全体の約60%でした（Q2-2）。

ス 少し強引なまとめにはなってしましますが、名刺を自己負担で製作している職員の多くは、年間約3000円の出費を強いられているということですね。

梅 年間100枚使うとすれば、1枚あたりの価格は30円になりそうですね。

ス 印刷費だけで見れば、そこそこいい名刺が刷れる額です。

梅 そうなんですね。

ス 職場のプリンターで出力している方がかなり多いようですが（Q2-1）、彼らはもっと製作費を抑えられているはずですね。ということ0円？

梅 自己負担ゼロのケースもありますが、名刺用紙の購入費用を負担しているケースもあります。もち

ろんそれでも、印刷会社さんに外注するよりは安いと思います。

ス 外注しなくても費用負担が発生することもあるわけですね。自己負担については、みなさんどう思っているんでしょうね。

梅 そんなんですが、自由記述でも名刺についての意見をまとめてみたところ、製作費が自己負担であることについての異論が約50件もありました。

ス まあ仕事で使うものですから、当然といえば当然ですね。

ス 市民のみなさまからの厳しい意見もあるかもしれませんが、そこは堂々と主張していいところだと私は思いますね。

ス デザインについても、やはり事前にお聞きしていたとおりの結果だったんですか？

梅 そうですね。やはりほとんどの職員が、デザインを決める作業を自分で行っていました。結果としては予想どおりでしたが、デザインの決め方についてある傾向が見えてきました。

梅 デザインの良し悪しよりも、い

かに手間をかけずにつくるのが重視されているということですね。

ス それはおもしろいですね。

梅 前の部署で使っていたデザインや部署内の同僚のデザインを流用したり、他部署がつくった台紙を使ったりといくつかのケースに分かれるんですが、「ありもの」を使う職員がゼロからつくる職員よりも圧倒的に多いことがわかりました。

ス ある意味正しい選択ですよ

ね。名刺のデザインを決める作業は本務ではないわけだから、コストが小さいに越したことはない。その傾向がつかめたのは大きいですね。

ス そうですね。ただ、それでも印刷とは別にデザインを外注する職員さんはいないんですね？

梅 ゼロではありませんが、あまり聞いたことはありませんね。

半数以上はデザインの統一に前向き

梅 回答者のほぼ全員が名刺がバラバラであることを認識している（Q4）にもかかわらず、統一した方がいいと考えている職員は58%（Q5）にとどまりました。

ス これを多いと見るか少ないと見るかですが、私は意外と多いなと思いましたね。

マ 私も結構多いと感じました。統一した方がいいと考える理由も聞いているんですよ？

梅 はい。多かったのは、「市の理念や姿勢が伝わりにくくなる」「組織としての品格が落ちる」という2点で、統一した方がいいと考えている職員は、バラバラであるデメリットも理解しているようでした。

ス 他にはどんな理由がありました？

梅 「もらっても名刺を整理するのが大変そう」「バラバラだと渡すのが恥ずかしい」という、組織ではなく個人にフォーカスした理由も結構ありましたね。

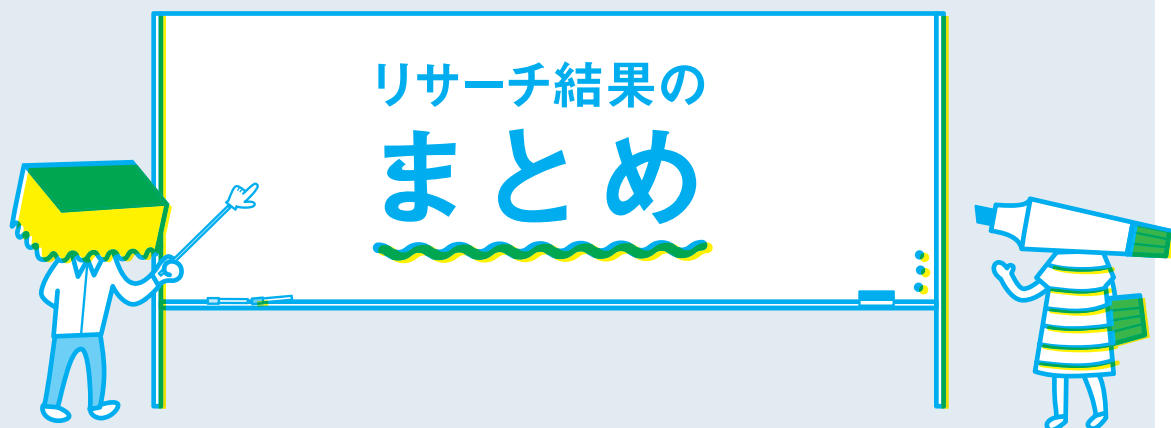
ス 製作コストを抑えようという傾向にも言えることですが、こういう個人の仕事に直結する部分の方が当然意識はしやすいですね。組織レベルで名刺デザインの見直しを考えるときに

梅 も、個人レベルの課題も視野に入れて取り組む必要がありますね。



アンケートからわかったこと

- 仙台市役所職員の多くは、**自費**で名刺をつくっている
- **公式のデザイン**がないため、統一しようにも難しい
- **お金**も**時間**も、名刺にかかるコストはできるだけ小さくしたい
- デザインの統一に前向きな職員が多いが、ある程度の**自由度**も求める声も少なくない



必要なのは…

- 職員がデザインする際のガイドラインや素材集？
- 職員自ら編集出力可能な統一フォーマット？
- 統一デザイン面と自由に使える面融合？



仙台市にとって最適な名刺とは

ス ていねいなリサーチと分析のおかげで、だいぶ現状を理解することができました。

梅 いえいえ。「仙台市役所の現状」と言うには、少し回答者数が少ないかもしれませんが、大きなズレはないと思います。

ス そうですね。では、いったん持ち帰らせていただいて、デザインはもちろんです。コストの部分についても何かいい方法がないか検討してみます。

ス ある程度かたちになったら、また提案に伺いますね。

梅 ありがとうございます。楽しみにしています。

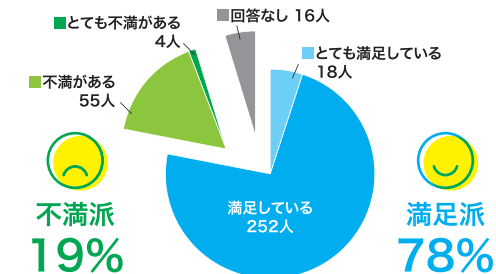
マ よろしく願います。

次号予告

コスト面や製作の仕組みまで踏み込みつつ、仙台市役所にとって最適な名刺を考える「デザイン検証編」をお届けします。



Q7 現在お使いの名刺のデザインに満足していますか？



こんな意見もありました

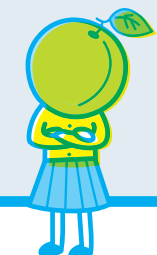
基本的に名刺は、業務上必要なものであり支給されるべきものだと思います。支給が難しいことも理解はできるが、「**市として伝えたいことを伝えるツールの一つとして支給する**」という風にすればいいと思う。

某大手広告代理店さんの名刺は両面印刷ですが、裏面は会社ロゴのみカラー1色でカラーバリエーションがあり、その会社のさまざまな部署の方から名刺をいただくのがコレクション感覚で楽しかった。仙台市職員の名刺も「**もらって集めたいデザイン**」だと市役所のイメージもよくなるかもしれない。

業務上名刺をたくさんいただくが、その後の**整理と部署内での共有方法に悩む**。特定の業務に関連のあるものは、コピーし起案文書と一緒に保存するが、年限が過ぎれば廃棄されてしまうし、保存したことを忘れれば人脈としてなかったことになる。部署ごとに、体系的に名刺データを保存できるシステムがほしい。

個人で発注するのは非効率なので、統一されたデザインで年に1〜2回**部署ごとに必要枚数をまとめて発注**するのがいいと思う。

名刺はきれいに作りたいため印刷屋さんに外注したいが、**最低ロットが100枚からだと使いきれない**ため自前でプリントしている。



ス 一方で、バラバラでよいと考えている職員さんも少なくはないですね。

梅 40%くらいはいますね。ただ、理由の大半が「個人の好みがある」とか「個性を表現した方が覚えてもらやすい」といったもので、統一するメリットを上回るものではないと感じました。

ス 統一するメリットをきちんと説明すれば、納得してもらえそうですね。

梅 はい。ただ、「費用が自己負担だから、自分の好きなデザインの

ものを使いたい」という意見も割とあったりして。

ス それはごもっともな主張ですね。デザインを統一するためには、そこもクリアする必要がありますね。

「デザインに満足」の真意と背景

梅 一方で、今使っている名刺デザインに満足している職員が270人、84%もいることもわかりました。(Q7)

ス 自分でデザインを決めている

から当然、という言い方もできますが、統一の必要性を感じている方が多いことと相反する結果だなと感じました。

ス 同感です。

梅 ですね。それで、考えてみたんです。何をもちて、職員の多くが「満足」と回答したのかを。

ス ええ。

梅 おそらくなんですけど、必要な情報を盛り込んでいることに対する「満足」なんだと思うんです。

ス 見た目はあまり気にしていないということですか？

梅 いえ、気にしていないというよりは、細かい部分に気づいていないということだと思います。そして、それは仕方のないことだとも思います。普段クリエイターさんと接することの多い私でさえ、デザインの良い悪いについて客観的に語れないわけですから。

ス なるほど。ただ、印刷とは別にデザインを外注している方もいらっしゃるんですね？

梅 はい。私が把握しているのは2人で、どちらも私の部署にいた職員です。この部署の仕事を経験

し、デザインに対する意識が変わったようなんですが、異動先では個人としてのデザイン外注をやってしまったと聞いています。

ス どうしてなんでしょう？

梅 ログなどと一緒にプロジェクトで統一の名刺デザインを外注することになったこと、仕事相手が変わったこととお金をかけてまでデザイン性の高い名刺を持つメリットがなくなったこと、というのがそれぞれの理由です。ちなみに後者も、現在の部署の名刺はデザインが統一されているそうです。

外国人の視点？

近年、街なかで外国人の方を見かけることが多くなりました。
インバウンド観光などの分野では、外国語での交流や、海外へのアピールに長けた外国人の人材が求められ、仙台・宮城でも実践的な協働事例が多く見られます。

一方で、外国人の方の強みは、語学力や海外のニーズに関する知識だけではないのでは？ とも思うのです。興味や関心はさまざま、地域へのまなざしもきつと多様性に富んでいるはず。

だとしたら、外国人の方たちは、仙台・宮城という地域をどのように見ているのだろうか？

そんな興味から、彼らの視点に着目し、その魅力や可能性について考えてみたいと思います。

Contents

3
まとめ
国際交流のヒント

ともに地域で生き、暮らしを豊かに
P45

2
インタビュー
YouTuber/ ダヴィデ・ビッティ

母国イタリアへ、
仙台のリアルな姿を伝える
P43

1
仙台・宮城在住外国人
クリエイター座談会

私たちの仕事、
私たちのコミュニティ
P40

数字で見る！ 仙台在住外国人

仙台市民の100人に1人は外国人

仙台市総人口 1,058,610 人のうち、
外国人は 11,867 人（平成 29 年 7 月 1 日現在）
出典：仙台市住民基本台帳（市民局広聴統計課資料）

仙台に住む外国人の約 20% が留学生 * 仙台市外国人登録者の在留資格別割合

留学 22.6%、永住者 19.6%、特別永住者 14.4%、家族滞在 10.1% 就学 7.8%、
日本人の配偶者 6.9%、教授 4.0%、その他 14.6%（平成 22 年 4 月末現在）
出典：外国人支援を中心とした東日本大震災への対応について（仙台市市民局市民協働推進部交流政策課資料）

MEET THE NEW LOCAL

ミート・ザ・ニューローカル

外国人の
視点から、
地域と出会う

企画：小林知博、鈴木瑠理子、大林紅子 文：鈴木瑠理子 デザイン：小林知博 写真：嵯峨倫寛

Writer

Temple

Language

Sea

Photographer

Shrine

Festival

YouTuber

Market

Media

Tourism

Farmer

Sports

Translator

私たちの仕事、私たちのコミュニティ

仙台・宮城という地域で、個性を活かしながら活動する3人に、それぞれの取り組みや、地元の人と関わることに語っていただきました。

Photographer

ザンダー・マグロサー

Xander McGrouther



1985年イギリス生まれ。村田町でALT^{*1}として勤務。水中生物を撮影するカメラマンでもあるが、現在はALTの業務と勉強に専念している。かつては映画の音響制作や録音に携わるほか、イベントなどの照明技術者としても活動。マーベルコミックス原作映画の大ファン。

Writer

アリーセ・ドンネレ

Aliise Donnere



1987年ラトビア生まれ。東北大学大学院文学研究科宗教学研究室博士課程後期在籍。外国人に仙台の多彩な魅力を伝える英語のwebサイト「Sendai Motions」のライターとして活動中。地藏信仰や仏像を研究し、県内の神社仏閣のほぼすべてに訪れている。一児の母でもあり、子育てにも奮闘中。

Translator

ティロ・ケルンヒェン

Thilo Kernchen



1988年ドイツ生まれ。株式会社コミュニナ勤務。通訳や翻訳、イベント企画を担う。相手の思いや意図を汲み、コミュニケーションを促すことが得意。目標は、多くの言語を活かして人生を豊かにすること。今回の座談会では、日本語を勉強中のザンダーさんの通訳も務める。



—— 仙台・宮城に来たきっかけを教えてください。

ティロ ドイツの大学で日本語を勉強していた時、東北学院大学に赴いて、ドイツ語を学ぶ日本の学生と交流するというプロジェクトがあったんです。それに参加したことがきっかけで仙台が好きになってしまい、留学を決めました。もともと日本語の勉強がしたいという気持ちも強くあったので、東京や関西と比べて外国人が少ない、日本語を喋る機会の多い仙台はいい環境でもあったんですね。そして、就職先も仙台で探し、今の会社に入社しました。

ザンダー 僕も、日本語を勉強したいと思ったことが一つのきっかけです。今は村田町でALTをしているのですが、実は赴任先の希望は沖縄でした（笑）。以前はオーストラリアでダイビング写真を撮るカメラマンをしていたので、日本でも撮りたかったんです。でも、今は仙台・宮城の魅力もすこしずつわかってきました。

アリーセ 私は震災を機に、仙台への留学を決めました。テレビで被災した様子を見て、「あの場所に行きたい」と思ったんです。今でこそ、津波で流されたお寺を建て直すといった活動もありますが、当時私が考えていた

のは、宗教はもっと人に寄り添うことができるのではないかと考えていた。現地に行き、それを自分で確かめたかったです。

—— みなさんは今、どんな仕事や活動をされていますか？

ティロ 仙台・宮城在住の外国人に向けたイベントの企画に携わっています。例えば、地元の食品生産者の方に、生産過程や食べ方などについてお話しいただく「Tohoku Local Food Cafe」というイベントを開いているのですが、これは観光とは違い、

東北での暮らしをより充実したものにしてほしいという考えのもとに行っています。これまで、登米の郷土料理「はつと」の加工会社の方や、山形県朝日町のりんご農家など、いろんなゲストをお招きしました。「はつと」の回では、参加したフランス人の方がすごく興味を持ってくださって、ゲストに食い入るように質問されていてたね（笑）。パスタと同じ小麦からできているのに、形状も食べ方もまったく違うので、とても驚いたようです。生産者の方にとっても、新しいアイデアが生まれる新鮮な機会になっているんじゃないかなと思います。



▲ ティロさんが運営する「Tohoku Local Food Cafe」の様子。2016年1月26日に開催した edition 8 のゲストは、山形県朝日町でりんご農家を営む古田さんご夫妻。

アリーセ 私は以前、留学生に生活情報を発信するWebサイトの運営に携わっていたのですが、自分が興味を持ったテーマについて伝えるということもしてみたくて、今は「Sendai Motions」で寺社やお店の取材記事、展覧会ガイドなどを書いていきます。時々、「記事を読んでこの場所を知りました」といった反応をもらうこともあるのですが、最近、とてもびっくりしたことがあります。登米市東和

町米川に、男の人たちが藁の装束をまとって町の家々に水を撒く「米川の水かぶり」^{*2}という火伏行事があるんですね。毎年県内外から見学者が訪れるのですが、行事に参加できるのは五日町という地域の男性のみという伝統があって、普段は外部の人が取材に入るのが難しいんです。

でも、BAKKE^{*3}の方に依頼をいただいた、町の方々と交流しながら、特別に行事の支度の様子なども記事に書くことができました。そうしたら、アメリカにある藁細工の博物館^{*4}の方から「とても興味深い」とメールをいただいて、館長が宮城に視察に来られることになって（笑）。「米川の水かぶり」は継承者が減っている背景もあるのですが、外部の人が「魅力ある貴重な文化なんだ」と伝えることで、地域の人も、自分たちの伝統のユニークさを再認識できるんじゃないかと思うんです。記事を通じて、地域を守りたいという気持ちはありますね。



▲ アリーセさんが取材した、2017年2月の「米川の水かぶり」。

ザンダー 僕は今、フリーの時間は勉強に充てていることが多く、なかなかカメラマンの活動はできていないんです。でも今後、日本でも自分の写真の展覧会を開きたいと思っています。オーストラリアでの仕事は海洋保護問題をテーマにしたものだったのですが、その時の経験から、海と生物たちの美しさにすっかり魅了されてしまいました。だから、自分の思いをたくさんの人と共有する機会が持てるとうれしいですね。日本の食文化には海の恵みは欠かせないですし、海と自分たちの住む地域との関係を考えるきっかけになればいいなと思います。

*3 一般社団法人 BAKKE…登米の地域文化や伝統の保存・伝承、国内や海外からの訪問客と地域住民との交流などを行う団体。

*4 The American Museum of Straw Art…カリフォルニア州ロングビーチにある藁細工の博物館。世界各地でつくり出された藁細工を展示し、地域の民俗文化や歴史、制作技法やその芸術的価値を伝える。

*1 ALT…外国語指導助手（Assistant Language Teacher=ALT）

*2 米川の水かぶり…毎年2月に行われる、登米市東和町米川に伝わる火伏行事。五日町の男性たちが藁の装束をまとい、顔に煤を塗った姿で町を巡り、家々の前に置かれた手桶の水を撒く。国指定重要無形民俗文化財。

YouTuber
東北大学大学院イタリア人留学生
ダヴィデ・ビッティ

撮影協力／仙台朝市商店街振興組合



／インタビュー／

母国イタリアへ、仙台のリアルな姿を伝える

——アリーセさんは、大学院を卒業した後の仕事について、どのように考えていますか？

アリーセ 仙台で就職したいと思っています。何回か就職フェアにも行ったことがあるのですが、難しさもありますね。やっぱり外国人だと、企業側は「うーん、ちょっと……」となってしまうようです。日本語を話せても、専門的な話が伝わるか、文化の違いはどうかとか、いろいろな問題が考えられる



▲ ザンダーさんがオーストラリアで撮影したジンベエザメ。

ので、敬遠するというか。でも、バックグラウンドの違う人と関わることで、ビジネスに新しいアイデアを取り入れられるんじゃないかなと思います。

ザンダー さまざまな文化背景の人たちを受け入れた方が、世界は広がりますよね。そういうところに気づいてもらえるというのがいいですね。

ティロ そうですね。あとは、その意識を僕たちがどうやって相手に伝えるかだとも思います。あるいは、相手を引き腰にさせないように気遣っていく。あんまりはじめから、「海外進出！」とアグレッシブになりすぎないようにすることでも大事なかな。特に日本人は、少し相手と距離を取るような感覚がありますよね。持続性のある関わりを築くには、目指す地点と今いる地点の中間の場をつくる必要があると思います。

——みなさんは、仙台・宮城に暮らす日本人の方どのように交流していますか？ 友達は外国人の方が多くでしょうか？

ザンダー 村田町は仙台より規模が小さいぶん、住民同士が親しく関わり

り合っていると思います。でも、世代は高齢の方が多くて、言語の問題もあって、同世代の友達をつくるのはなかなか難しい。仕事以外の場所ですべての人たちは外国人が多く、みんな仙台に住んでいますね。

アリーセ 私の場合、関わっている人たちは、日本人も外国人も半々くらいです。ただ、私が関わる日本人はお坊さんばかりで、マニアックな人が多いですね（笑）。仕事で会う人たちも、留学生の観点や語学力を求めている方が多いので、「仲がいい」とか、「友達」という感覚とはちょっと違うかもしれません。外国の人たちだと、もつと人のバリエーションが豊かですね。

——お互いがもっと気軽に関わり合うために、思うことや考えていることがあれば教えてください。

ザンダー この間、宮城に赴任しているALITのための講座があったのですが、その中のテーマに「どのようにすればコミュニティの一員になれるか？」というものがあって、それに対する一つの提案が「スポーツクラブに入る」だったんです。やりたいことが共通しているから、外国人と交流したいという日本人でなくても、無理をせず関わり合えるという考えですね。

ティロ 確かに、言語をあまり気にせず関わるから、心のつながりができるのは早いかもしれないですね。同じレベルから向き合えるきっかけをつくることは大事だと思います。

アリーセ 日本に住む外国人は、地元の人のようになるとしなくてもいいと私は思っていますよ。例えば、和食が好きだったとしても、子どもの頃から味わっている感覚と、20歳の時に初めて食べて「おいしい」と思う感覚は、やっぱりスタンスが違う。だから、お互いがどちらかに寄っていくのではなく、ちょっと視点が違うことを認め合えば、意外とコミュニケーションは取りやすいんじゃないかなと思います。

動画共有サイトYouTubeで、仙台の文化や日常の様子を発信するチャンネル「Vivi Giappone」を運営するダヴィデさん。取り上げるトピックは、七夕まつりから、立ち飲み居酒屋の店主やお客さんへのインタビューまで、さまざまな角度から日常の様子を捉えたものばかり。彼のユニークな視点に迫るべく、お話を伺いました。

——仙台の文化や日常をYouTubeで発信している。思ったのはどうだったか？

せっかく仙台に留学することになったので、母国イタリアに向けて日本の生活の様子を伝えようと思ったんです。日本を紹介するイタリア人のYouTuberはほかにもいっぱいいるけれど、寿司を食べる姿を撮ったり、原宿に行ったり、みんなトピックが同じなんです。文化や歴史を細かく紹介している人はほとんどいない。だから、僕は自分が住む仙台から、日本の大学生活はどんな感じか、どういう伝統があるのかといったことを、詳しく伝えようと思ったんです。僕は寿司屋さんに行っても、自分が寿司を食べている姿は撮りません。なぜ「握り寿司」「手巻き寿司」という名前なのかなど、特徴をできるだけ細かく説明しています。イタリア人が

▲ダヴィデ・ビッティ (Davide Bitti) | 1985 年イタリア生まれ。東北大学大学院文学研究科日本思想史研究室博士課程前期在籍。2010年に同学へ留学。東日本大震災により一時帰国するも、復興ボランティアを経て15年に再び留学し、現在に至る。大鯨から見る災害と伝説の関係について研究中。

◀ Vivi Giappone (ビビ・ジャッポーネ) | 2006年の開設以来、仙台にまつわるバラエティ豊かな動画を発信している。現在は登録者数 1 万 7000 人、視聴回数 200 万回を超えるほどの浸透ぶり。週に数回のペースで精力的に更新中。URL : <https://www.youtube.com/user/ayasustanaN>



ともに地域で生き、暮らしを豊かに

私たちと異なる文化の中で
培われた外国人の方の視点は、
普段私たちが気に留めずにいる
物事のあり様を浮かび上げら
せ、その魅力に気づかせてくれ
ます。そして、それは私たちが
日々営む暮らしの水面下に根
ざす、地域文化の“芯”のよう
なものが垣間見える瞬間なのか
もしれません。

外国人の方たちは、私たち
が地域のことをより深く知り、
改めて暮らしについて考えるた
めの手がかりを与えてくれる存
在なのではないでしょうか。

まずは一歩踏み出して、触れ
合い、ともに地域で生きること
について考えてみませんか？

Let's Meet the New Local!!

Case.1 外国人の方と触れ合う 機会が少ない人は……

外国人の方が通うバーやカフェに出かけてみましょう。勇気を出してカウン
ターに座ると、店主の方や常連の方と話すチャンスが生まれるかも？

middle mix（青葉区国分町）| 日本語が上手なイスラエル人オーナーが腕
を振る中東・地中海料理の店。水タバコを楽しむこともできます。
週一回、ベリーダンスショーも開催。
<http://middlemix2010.com>

Northfields（青葉区国分町）| イギリス人と日本人のご夫婦が営む
カフェ。おしゃれな雰囲気と本場イギリスのスイーツが魅力です。スコーン
作り、フラワーガーデン作りなどのワークショップも不定期で開催。
<https://www.facebook.com/northfieldsjp>

編集後記

“素直な感覚”の大事さ

今回取材にご協力いただいた4人の方々
は、仙台・宮城という地域の中で、それぞ
れ違う興味を見出しながらも、ご自身が「お
もしろい」と思う感覚を活動につなげてい
るところが共通していました。

もし、地元で暮らす私たちが、「仙台・
宮城にはどんな魅力がありますか？」と問
いかけられたら、どのように答えるでしょ
うか。すぐに思い浮かぶ人もいれば、言葉
に詰まってしまふ人もいるのではないかと
思います。

私たちの住む地域が、どんな場所であっ
てほしいか。将来、どんなふうになってい
ってほしいか。そんなことを考える時、自
分自身の「素直な感覚」で地域を見つめる
ことは、大事なこともなのかもしれないと考
えさせられました。

Case.2 外国語で交流してみたい、 外国人の友達がほしい人は……

国際交流のサークルやイベントに参加してみましょう。
いろんな人と気軽に会話を楽しめます！

HELLO WORLD | スポーツを通して外国語でコミュニケーション
を取ることができるサークル。10代後半～30代の学生・社会人の
方が多く参加。
<https://helloworld.international>

SenTIA 国際化事業部 | 多文化共生のための地域づくり、人材育
成に取り組んでいます。外国人の方の暮らしのサポートのほか、日本人
の方も参加できる交流会や講座などを随時開催しています。
<http://int.sentia-sendai.jp>

Case.3 オープンなイベントを通じて、 外国人の方と接してみたい人は……

語学のレベルや交流の仕方は人によってさまざま。
誰でも気軽に参加できるイベントも開催されています。

せんだい地球フェスタ

年に一度、仙台国際センターで開かれる多文化交流の催し。
世界各国の料理やステージ、交流・協力の活動紹介、ワー
クショップなどを通じて、さまざまな文化に触れることができ
ます。今年も9月18日（月・祝）に開催。
<https://senfes2017.jimdo.com>

東北大学国際祭

伝統衣装のショーやストリートパフォーマンス、郷土料理
の屋台など、留学生によるさまざまなアトラクションを体
験することができます。



——これまでで一番おもしろいと思った
トピックはどんなものですか？

仙台一高・二高硬式野球定期戦のアピール行進で
すね。生徒が大勢で、長ランを着たり仮装したりし
て街を練り歩くなって、ほかのところで見ることが
ありません。すごくびっくりしました。あとは、仙
台城やどんと祭の裸参り。ただ、僕が一番うまくで
きたと思う動画が、逆にあまり見られないという
（笑）。例えば、石巻のサン・ファン・パウティスタ

号の復元船を見に行った時は、イタリア人にはきつ
とおもしろいだろうと期待して、船内の作りや、慶
長遣欧使節団について紹介したのですが、いまいち
反応が薄くて……。日常とともにある歴史や文化
を伝えたいと思っているのだけれど、なかなか難し
いですね。でも、今年撮影した青葉まつりの動画で
は、実際に山鉾巡行に参加して、自分の目線から
伝えることを意識したんです。そうしたら、「私も
参加できるかな」といったコメントをもらいました。
とはいえ、一番見られているのは、日常生活の典型
とも言えるスーパーやコンビニ、そして僕の住むア
パートを撮影した動画ですね（笑）。へみやぎ生協へ
行って店内に並ぶ商品を説明する動画は人気があ
ります。味噌や漬物、ビール、どれをとっても種
類が豊富ですし、果物の値段の高さにはみんな驚
きます。アパートの動画は、お風呂の追い焚き機能
などの部屋の設備を紹介したものののですが、視聴
回数が10万回を超えました。

——「Vivi Giappone」について、
仙台の人からはどんな反応がありますか？

取材をお願いすると、快く応じてくれる方が多い
ですね。あと、東北大学の図書館の方に声をかけて
もらい、館内を紹介する動画を撮影したことがある
のですが、今ではそれが縁で、外国人に図書館の使
い方を教えるための映像をアルバイトで制作してい

ダヴィデさんと仙台朝市に行ってきました！

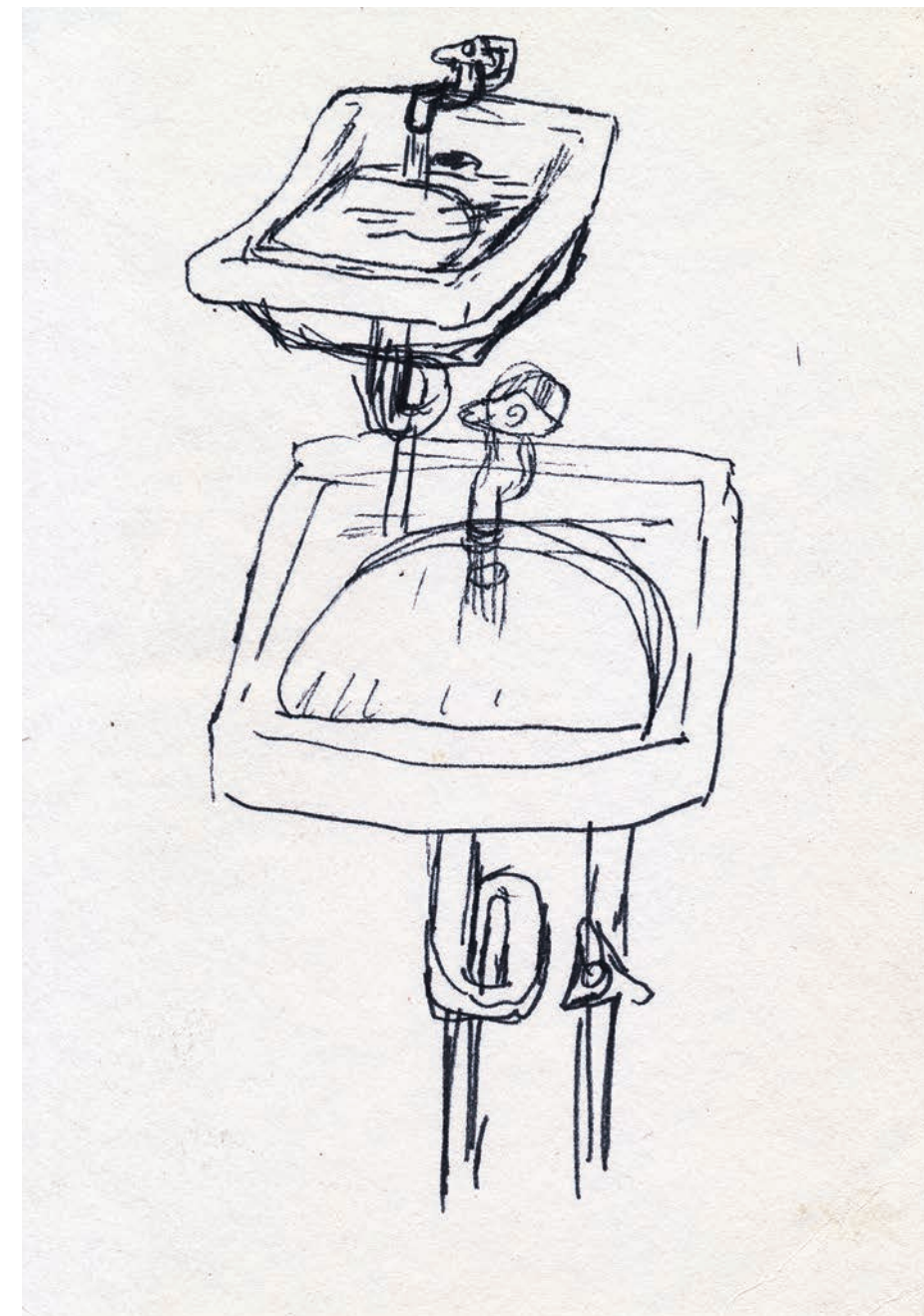
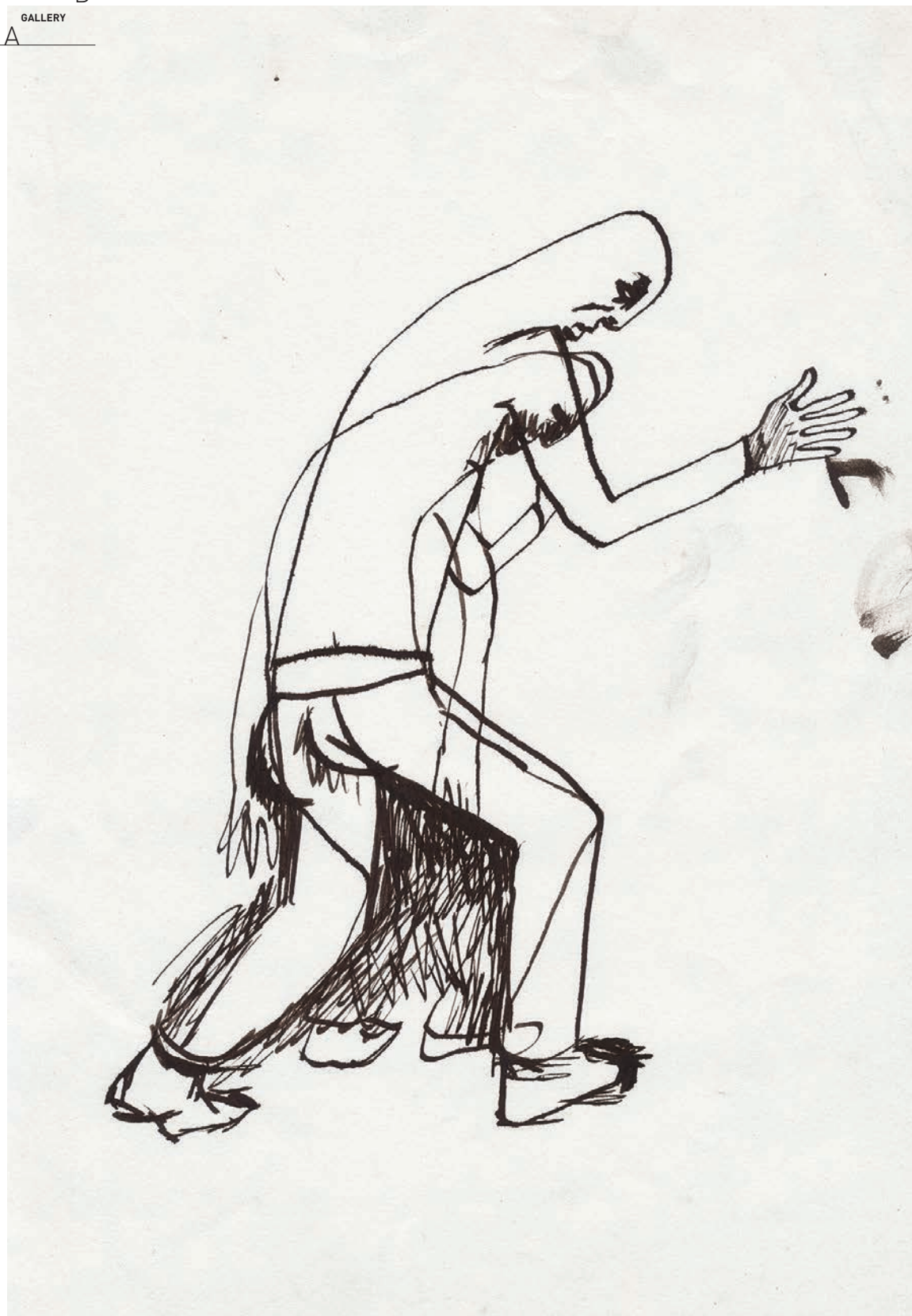


鮮魚・珍味などを扱う〈こがね海産物〉にて、
ご主人の粋な計らいで「鰯の骨切り」を見せて
いただけることに。皮を断らずに細かく骨を切る
職人技に、ダヴィデさんも「すごい技術！」と感
激した様子でした。仙台朝市のみなさま、ご協力
いただきありがとうございました。

——では、ダヴィデさんにとって、
仙台はどんな場所ですか？

第二の故郷かな。伊達政宗が築いてきた街の歴史
があったり、地元の人たちが「私は仙台の出身」とい
う意識を持っていることが感じられたりと、仙台に
は独特のアイデンティティがある。僕にとっては、
住みやすくて楽しい、料理とお酒が美味しい街とい
うだけではなく、すごい歴史を持っている街。日本
の中で一番好きな場所です。

ます。それから、通町の〈青葉手打ちそば教室〉の
方が僕の活動を知っていてくれて、「撮影してほしい」
と連絡をもらい、取材に行ったこともあります。
蕎麦の種撒きや、そば打ちの様子を撮らせてもらい
ました。みんなフレンドリーに協力してくれまっし
喜んでくれている気がします。

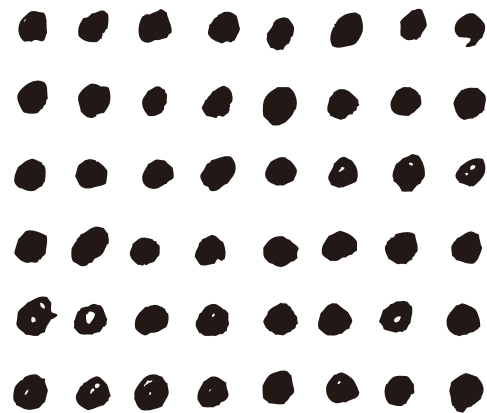


工藤夏海[くどう・なつみ]

1970年宮城県生まれ。美術と生活と社会のあわいで多様な表現活動を行う。
1997年人形劇団ボンコレラ結成。2011年より喫茶ホルン経営。yumboの管楽器担当。今年12月、個展「世の中グラデーション」開催予定。

ドローイング: 残影シリーズ1[右]/残影シリーズ2[左]

購買と心



■企画・執筆……斧澤未知子
■企画・デザイン……根 朋子
■撮影……嵯峨倫寛

ある時期あるかなりの量の熱意と執着をもって考えてたものはもう恋と言ってしまったいいのではないかと考えれば、これは昔の恋の話です。

私の愛するA化粧品はその製品の口紅BにC国で採れる植物DEから抽出される当時俄かに注目され始めた成分FGHを保湿成分として使っていたのだが実はこの植物DEはC国にのみ生育が確認される希少種で専門家間では絶滅危惧と生態保護が叫ばれており、にも拘らずC国は外貨獲得のために希少なDEを売り捌き、一般の消費者はそんなこと露知らず、私はポッドキャストのニュースで非必然的に知った。

確かに口紅Bは中々良い使用感だった。でも実際、成分FGHを使っていない口紅も別に悪いわけじゃなし、たとえ他より良かったとして希少植物を犠牲にするって割と暴挙に思われたし、今時環境的配慮もできないなんてAは趣味が悪いと思った。そうして私はその口紅を買うのを止めただけ勿論と言うべきかそれでも生産は続き、私は気疎い状況を変えるのに自分があまりに非力なことと良いと思うものを傍に置く行為が難ある活動に結び付き得る消費に居心地悪く感じ、もぞもぞと、自分の考えを何とか伝えたいと思いがらも、そうし損なっていた。想像してみたい、いい、この執着は恋だったことを。あなたが誰かを好きで、その相手に「あなたの趣味悪いと思う」

とズバリ伝えられるだろうか。私は嫌いな人にとって難しい。その口紅のことがあれど、基本的には私はやっぱりAが大大好きだったし。

（私にとっての）そんな趣味の悪さを持つAの、しかし何に恋というほど惹かれていたのかというAはとにかく見た目が良かった。化粧品の容器もパッケージも広告も。ああ、私は昔から美形にとにかく弱かった！ 人でも物でも一目見ただけで好きになる時には好きになってしまふ。外形は一つのメッセージよね？ 色んなことが読み取れる。内面が大事というけれど、自分もそう思っていると思いたいけど、だめだ、時に外見は見る麻薬だし。Aはその全てのメッセージを巧みに操り、家の鏡の前に、化粧直しにポーチから取り出す手元に、あらまほしきはAの化粧品……とうとう思い描かせた。Aを持つ自分は持たない自分より幾分か良いはずと思いつかせた。私は作る人じゃないから、よほど意識的でない限り消費で自分の輪郭を描き出すことになっているこの世界で、目の前に並べられたものから選ぶ行為を通して私を作っている。私にできる私なりの美学を発揮する積極的な活動はその消費における選択行為だけなのだから、私はせめて選ぶ時にはできる限りに選り好みする。あなたは笑うかもしれないけれど、私は自分が持つものと自分が同一視されると感じていて、そんな私の目にAは見事に敵う容姿をして

《この広告と話はフィクションです》



「うん」は、イコールYESじゃない

L ü g e

My opinion is as important as the opinion of "Lüge" that the eyes also shine dazzlingly. I did not want to imagine myself that I do not have it at that time, and I was afraid to lose "Lüge".

気分を描く化粧品

今日は夏？ それとも暑いだけ？



上手くブスになるのだって難しいということをみんなは知らない



気分を描く化粧品

L ü g e

My opinion is as important as the opinion of "Lüge" that the eyes also shine dazzlingly. I did not want to imagine myself that I do not have it at that time, and I was afraid to lose "Lüge".

目が合えば微笑む、にはうんざり

お腹が痛い、と言ったら信じてくれる？

た、どこか私の願望を形にして見せられたみたいだった。しょうがない。

ところでもしかしたらこれは別に成分F G Hを使うのを止めてという話じゃないかもしれない、使い続けたっていいのかもしれない、環境を壊さない方法であれば。するとこれはお金の問題かと思えてきて、つまりそういう方法を開発するのにお金がかかります、それは値段に反映されてしまいます云々。ところで私は自分が払える範囲なら、自分にとって意味のある欲しいものが他より高くても払えばいいと考えていて、比較的貧しくあるにも関わらず使うところには大きく払う傾向がある。でも、だって、お金っていうのは血液で、循環することで街の、国の、世界の活動を回しているのが役割なんでしょ？ 私のところでただ止めていてもしょうがなく、私の活動に寄与して次に渡っていくもの。どうせ何かに使って次に渡さないといけないんだし、だったら私は自分が欲しいものの価値を金額で相対評価することを止め、安くいいものを手に入れたという真実な考えを泣く泣くながら手放す荆の信仰の道を選ぶことにした。「できるだけ安くいいものを」。何て道理の通ったいい考え！ でも私の頭が操るにはどうも難しい理屈過ぎるようだった。何かが何で安いかを見極めようとしても値段の奥の底知れぬ間全然私にはつきり見えてこないし、唯々よ

り安いものをと小さな数字を追いかけることで自分は何が欲しかったのかよく忘れてしまう。別に高いものを買うことが好きなわけではないけど、安いことがものを買う全ての理由ではないのよ。だから、つまり、理由があつて高いということが理解できれば、私はそれでも買うのに。

しかしながらその気持ちを消費という行為の中でAに表現して見せるのは難しく、思い詰めた私は署名運動にまで参加してみた。微々たる存在感ながらウェブ上でこの問題を提起し署名を募っているのを見つけたのだ。とはいえ平気だったわけじゃない。愛情故の私の細やかなこの行為は、しかし相手からその他烏合の難癖と一緒にくたに見られるんじゃないかと不安だった。署名活動というのは名前という構成要素で訴えの量を可視化するのが重要なわけで個々の名前なんかその夥しい量の塊に塗り込められて識別されるわけないし自分の名前が見出されるかもなんてむしろ自意識過剰な妄想、だろうけど、恋は盲目かしら、でも分らないじゃない？ 我が社の口紅成分への反対の署名がこんなに集まっています！ と眼鏡の秘書が紙束を手を駆け込む社長室、一瞥で「ふん、うるさいことを言いやがって目障りだ」と地下の保管庫に直行したその署名の束が今後私にとって都合の悪い折、例えば接客なんかの折に取り出されて、私を冷やかに遇わせる遠因とな

らないとも限らなくない？ と想像は膨らみ、そんなの切な過ぎると考えていた。

そう悩みを打ち明ける私に「それって対等な関係じゃないね」と友達は言った。「本当に良い関係なら短所を率直に伝えられるべきだし、それを受け入れられないような相手はむしろ付合う価値ないと思うけど。押売りの関係だね」。彼女はいつも美しく、そして正しい。正論だ。崇拜を盾に一方的に受け入れさせる関係なんて生産的じゃない。何事も、私の人生と相手の人生（それに世界！）を豊かにしていく為には互いの意見を出し合い、片方だけを飲むのじゃなくそれら意見の中間にある落とし所を見つけ選んで行くべきで、たかが恋、たかが消費とといったってそういう態度を示していく機会を内包している。それでも私は「分かってたつてできないこともあるんだよ！」と足を洗った今なら分かる、そんなの全然甘んじて受け入れていいことじゃない。私の意見は目も眩むほど輝いて見えるAの意見と同じくらい重要。あの頃はAを持たない私なんて想像もしたくなかったし、Aを失うのが怖かった。しかし悲しいかな有難いかな恋なんて次をしたら忘れちゃうようなものでもあって、あれももう過去の話である。Aのあの時代錯誤感は今頃木星のあたりを旅しているところかしら。（了）

斧澤未知子（おのざわ・みちこ）| 1984年兵庫県神戸市生まれ。スイスのチューリッヒ芸術大学でデザインのマスターコースに在籍する一方、出版社 edition fink でアートブック制作を学ぶ。表現のための言語外言語について日々考えている。

根 朋子（こん・ともこ）| 1984年東京都生まれ。グラフィックデザイナー。広告・CI・パッケージやパンフレットなどを中心に手がける。ジャンルを限定せず、デザインやコミュニケーションを交えて生まれる可能性を探している。活版印刷研究会、製本部所属。

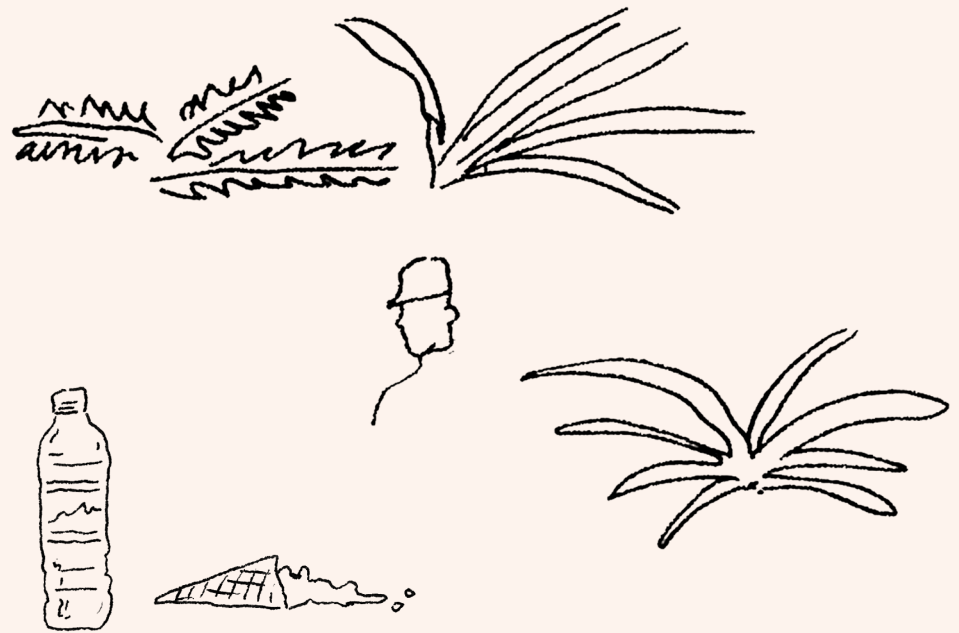
雑草からパクチャー

第1回

皮フ
皮フは少し透過するから 枕灯を吸収して
腕に生えているすこし太い毛の毛根は黒くてたくましくて
つまんで抜こうしてもまだあまり生きてきていないから
中のほうへ根と毛の間のように生えていてなかなか抜けないから
それでも必死に抜こうとして間違って皮フをつまんだりして
さっきまで透過していたのに 赤くなって組織は行方を暗まして
一体いまは何時だろうとふと我にかえる

「だから私は日産のパオ君で逃げたのです」
そんな古い車でどこまでも逃げられると思う
新しい車でしただってそうどこまでも逃げられる訳でない
「けれど、あのウィークエンドに走るホンダ赤いS800は・・・」
あるいはそうかもしれない
あるいはそうかもしれないと ただ言いたいだけ
私は見聞きしたもののから絶えず影響を受ける
見聞きしたものが私という人間をつくる
「じつはもう、逃げる場所なんて殆どないのです」
あるいはそうかもしれない

私は仕事中、雪国で過ごした夏なのか冬なのかも解らない
寂れた歓楽街にある薄汚いスナックで働く老女を思い出し
私はなんだか懐かしくなった
懐かしきとはそれだけで
あとすこしだけ寿命が延びたかのように見せかける
ズル賢いクスリのような



旬ではない読書

小川洋子は十八歳の時に金井美恵子の『愛の生活』を読み、「自分もこういうものが書きたい」と思ったそうだ。ウィキペディアに載っていたのを読んだだけで本当かどうか知らない。しかし、疑うべき点もこれといって見当たらない。いままでどれだけの人が同じことを思っただろう。

金井美恵子『愛の生活・森のメリュジーヌ』／小川洋子『シュガータイム』

が「夢の時間」という話の中にいるような気分になる。他の曲も聴いていたはずなのにどうしてこの曲に限ってそのような現象が起こるのかはよくわからない。そういえば同じ時期にユンボの『鬼火』というアルバムもよく聴いていたが、「人々の傘」という歌を聴くと、帰宅途中にウィルキンソンの炭酸水三本とあまり美味しくないサラダが入ったスーパーのレジ袋を持って「目黒銀座商店街」を歩いている自分の姿が浮かび、シャッターが降りたラーメン屋の入口にスーッ地で深紅のセットアップを着た男と、綺麗なドレスに高いヒールの靴を履いた女がいて、二人は酔っ払っていてシャッターに寄りかかりながらお互いがくっついてしまいうようなほど顔を近づけて何か話している。僕は途端レジ袋に入っている炭酸水とサラダがかわいそうに思えてくる。

「夢の時間」の中で「アイ」という主人公の女性が旅行案内所から宿泊先のホテルまで歩くシーンがある。僕の頭の中で再現されたそのシーンは生まれてから九歳までを過ごした故郷である相馬の風景だった。その風景は

去年の秋、知人に薦められて金井美恵子の作品を読んだ。新刊で出ているものや古本でしか手に入りくいものも含めて何冊かをまとめて購入し、とりあえず講談社文芸文庫で出ている『愛の生活・森のメリュジーヌ』という短篇集から読みはじめた。この原稿を書くまで、「森のメリュジーヌ」を「森のメリージュ」だと思い込んでいた。よくこういった勘違いを脳が勝手にしている。「愛の生活」はわりと短い話なのですが、読み終わり、次に「夢の時間」という話を読んだ。「愛の生活」に比べるとやや長く、またなかなかスムーズに読み進まなかった。その頃、シュガーベイブの『SONGS』というアルバムを毎日どこへ行くにも聴いていて、「風の世界」という歌を聴くといまでも自分

『シュガータイム』を読んでいると突然時間がゆっくり流れているように感じることもあり、そしていつの間にかまた元に戻った。ページがなかなか進まず、いつまでたってもこの話は終わらないのではないかと思った。

僕はいつも小説を読むときは物語の世界に入り込むまでにやや時間がかかるが、この本の場合、はそろそろ入り込めたかなと思ってもリズムが変わって突き放されるといった具合が長く続いた。後になって気が付いたがその妙な時間感覚は「夢の時間」にも通ずる。しかしだからといってそれを理由に金井美恵子と小川洋子をつなげようというわけではない。

フェルトペンで、大きく『小林』と書いてあった。
「ねえ、見て。小林よ、小林」わたしは『小林』という言葉で、いとおしむようにゆっくり発音した。
「本当だ」
真由子は石畳の上で小さく飛び跳ねた。

僕は布団に寝転びながらこのシーンを讀んだ。寝転びながらも両足はどこかの石畳の上にあった。真由子が小さく飛び跳ねると同時に僕の身体もほんの少しだけ宙に浮かび、程なくして石畳の上に着地すると自分の体重を両足に感じた。それが『シュガータイム』という世界に入り込んだ瞬間だった。僕は友人の「あなたにとても似ている人が出てくる」という言葉をずっと気にかけてながら讀んだ、そのせいか読み終えた時はひどく疲れていた。何かを期待していたのかもしれないし、何かに畏れていたのかもしれない。しかし結局わかったのは僕と彼女はこれからずっと友人のままだろうということくらいだった。



佐藤豊（さとう・ゆたか）

福島県相馬市生まれ。グラフィックデザイナー。幼い頃は野球選手に憧れたが持病の喘息が悪化し長期入院を余儀なくされ断念。病院に併設された学校で若い美術教師にシュルレアリスムの絵画集を見せられて感銘を受ける。

伊藤眸（いとう・ひとみ）

新潟県新発田市生まれ。イラストレーター。東北芸術工科大学 建築環境デザイン学科を卒業後、各地域でのフィールドワークや日々の暮らし、ファッション、演劇など、様々な分野でイラストレーションの制作を行っている。



デザイン／菅野 恵

風と花と vol.1

震災から6年を経た、荒浜の風景と記憶 文／高山智行

のどか

長閑な田園風景が広がる道をひたすら東へ車を走らせる。

県道10号亘理塩釜線を越え約40ヘクタールの広大な土地へ。

重い門扉を開けてかつては校庭だった場所に車を止める。

迎えてくれるのはスズメ、ムクドリ時々キツネ。

姿は見えないがカッコウの鳴き声も聞こえる。

「震災遺構 荒浜小学校」

今春からの新しい職場。

震災前、仙台市若林区荒浜は、市内唯一の海水浴場として年間約4万人の海水浴客が訪れ賑わっていた海辺の集落である。

半農半漁の暮らし、お裾分けは当たり前。約2,200人、800世帯が暮らしていた。

2011年3月11日、海辺の集落は家々の跡形だけを残してその殆どが流された。

唯一残ったのは320名の命を救った荒浜小学校。

あの日から子供たちの声が響くこともなく静かに時を刻んだ小学校は、

震災から7年目の今年4月30日に震災遺構として一般公開を迎えた。

開館から2ヶ月、来館者数は2万人を超えた。震災後これほど多くの人々が訪れるのは荒浜地区としても初めてのことだ。

遠くは沖縄、海外からも。

然るべき場所が開かれれば人の意識や関心が向くことを日々感じている。

震災後よく耳にする「復興」や「希望」のように「風化」も便利な言葉に思える。

仮に風化が忘れることなのだととしても、忘れなくては前に進むことが難しい場合もある。

「あの日のままの気持ちなら生き続けることは難しかった」と家族を亡くした友人が話していた。

6年という月日は上記に記したような安直な二文字で括れるものではなかった。

あの日が大地震の惨禍であることはこれからも変わることはないが、

あの日から始まったことは決して悪いことばかりではなかった。

この度、とうほくあきんどでざいん塾さんからお願いいただき全3回に渡る荒浜コラムを書くことになった。

コラムを書くなんて初めてのことで宛名のない手紙を書いているようだが、誰かに届くことを願って拙い言葉を綴ることにする。

あの日からも変わらぬ風が吹く海辺の街より。



他人のふんどしで相撲をとる

文／足立千佳子

コミュニティカフェ「うれしや」の 小商いシステム

他人のふんどしで相撲をとる。
ことばづらは、あまりよろしくない。
しかし、いわゆる「プロデュース業」は、
他人さまの才能あってこそその稼業だ。

仙台の新寺にひっそりと佇むコミュニティカフェ「うれしや」。

私はこの店の店主……も仕事のひとつ。本業はまちづくりワークショップのファシリテーターというなんとも訳の分からないものだ。本業の仕事の一端としてコミュニティカフェも運営しているのだが、ここの営業形態が自画自賛だ面白い。

不定期営業。イベント開催時のみの

オープン。イベントは「free of cost」のみの告知。完全予約制。イベントは店主自ら腕を振るうお食事会も時々あるが、そのほとんどはもととは「うれしや」のお客様だった方が主宰となり、手づくりグッズの販売や、ワンデイカフェ、ヨガ、コーチング、ママと赤ちゃんの集いの場など、多種多様なイベントが繰り広げられる。

単独でのイベント開催もあるが「うれしや」やならではという特徴は店主チカコによる「コラボ」の采配があること。手づくり作家さんたち数人にお声をかけてミニマルシェを開催してもらい、さらに同日、イス6脚のカウンターのみの喫茶コーナーではワンデイカフェを開催してもらい……喫茶コーナーと、その隣にある4畳半と6畳の和室コーナーには、出店者だけでもギョウギウになり、さらに、それぞれのお客様がご来店くださり、そこで交流の輪が広がっていく。また今度開催しよう、次はあの人にも声をかけよう、と、イベントが終わるころには次の企画が自然と出comingがっている。

毎年春先は「うれしや」〇周年おめでとうイベント」をオープンニングの日の前後1ヵ月間ずつ、あわせて2ヵ月間開催している。これは、「うれしや」の誕生をお客様にお祝いしてもらおうというものだ。「free of cost」でよびかけ、さまざまなイベントをお客様に自主開催していただき、その売り上げのバックマージンを収めていただくというシステムだ。この企画だと、店主チカコが把握しきれない隠れた才能が表に出てくるので、「うれしや」のイベントの種類に深みが出るのが、ありがたい。

今年の5周年記念イベント月間では、藍染めワークショップが始まったり、珈琲マスターが二人誕生したり、マルシェが生まれたり、と、6年目のコンテンツの充実につながる動きがみられた。まさに、他人のふんどしで相撲をとっている状態だ（笑）。

他人さまのふんどしが「使える！」と目をつけ、拝借して、「うれしや」という土俵で楽しい相撲をとらせていただき、その懸賞金はしっかりとふんどし

の持ち主様に還元し、ちょっとだけおこぼれもいただく。なんて良心的な小商いシステムなんだろう（笑）。

「うれしや」場所は、そういうわけで不定期開催だが、ご縁があればぜひお立ち寄りいただければ幸いだ。最初は机数席でのお客様もいつのまにか四股名を持つようになるかもしれない。



デザイン／菅野 恵

先日、この村の看板金目の仕事をしたのですが、
金目が並べられていたんです。そのとき手渡された
のが地域によりどう大中小のレシイ（天）に入った
野菜たち。そして手作りのやうりの（煮え物）。
手作りこんにゃく。

ホ
ク
ユ
村

米や野菜は
お金と同様に
扱われている
です。

一般的にみて労力と
対価がしっかり比例して
いるのかはさておき、この
村の方々はこれを当たり前
のこととして生活をおく
っています。



A子ちゃん
ありがとうねえ～
これ持っていて

- かし葉
- ひらたけ
- 大量の
手作り漬物。
- おおきな
手作りこんにゃく

葉はしか
汁をいれ

ありがとうございます

あ、
そう
いゑ
は。

知、この車で車を四角に
けど車のことあんておま
ついできてもらうたんで
決めたあと父が言いました。

「すこしまけてくんねえか。米二俵もてくか。」

返答は「しょうがないすねえ」

すこい。すこい。まかりな
米俵の約十萬冊も、お女く
なっただよ。

紙ね。考えてみたんです。この村には地お通賃として四物々交換山が成り立っているんじゃないかって。

イ士業の対価が
ち金たけじゃ

もう一つ言してもいいですか。

實は通貨があるのは、
 利用されているんですよ。
 私が近所の方に引越しの
 へい挨拶にいくと、なぜかお返しをいただいたんです。

地獄さん、おもてなしのモチベーションが異常に
上回いですね。お返しのお返しは延々と続くみたいなの。

「気持ち」が税のように
加算されていく感じですかねえ。

あら。よろしくね。
これ あげろわ。

スナック
カニうどん

さやえんじ?

春蘭の花



ありがたう
ございます～
春菊の花って
金だらけなの？

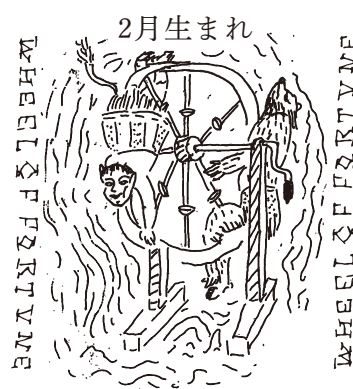
土事の目的で、ひとは生活のためにするものだと思ふんです。でもこの村に住んでいると、嫌でも頭には浮かんでしまふんですよ。



＜近い未来＞仕事と私事間の悩み事が明らかになり、解決の道が照らされます。月が満ちていくように取り組んでいるものごとも形になっていきます。＜キーワード＞想像力、直感力。犬、夜。18。＜メッセージ＞先の見通しがつくようになるでしょう。身辺整理をして時を待てばおのずと道が開かれます。



＜近い未来＞スタート前の準備期間です。新しいことをはじめるためには何かが必要。技術、道具、材料…。吟味してください。＜キーワード＞企画。コミュニケーション。はじまり。1。＜メッセージ＞新たな取り組みには確かな情報が必要です。スタート前の確認作業もおこなわずに。時を待って。



＜近い未来＞チャンスが訪れるとき。仕事や習い事のタイミングは今です。偶然の出会いや仕事のご縁が今後の人生に奇跡をもたらすでしょう。＜キーワード＞旅行。運命。回転。10。＜メッセージ＞人間関係やものが動き始めています。タイミングを逃さずいい波に乗ってチャンスを手にとしましょう。



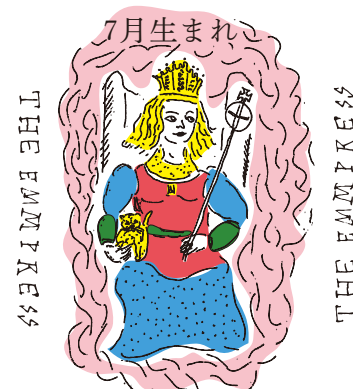
＜近い未来＞これまでそのままにしておいた案件に手をつけるときがきました。古い習慣に縛られることなく、新しい自分のための行動が功を奏します。＜キーワード＞絆。誘惑。セックス。15。＜メッセージ＞忙しさとやりたいことを先延ばしにしていますか。期限を決めて自分に投資するいい機会です。



＜近い未来＞あなたの力が試されるとき。勇気を持って行動を起こしましょう。あなたについてくる仲間が現れ、力を合わせて成し遂げることができます。＜キーワード＞美女と野獣。動物。8。＜メッセージ＞異業種異分野への理解はあなたの成長を促します。勇気とやさしさを持って行動してください。



＜近い未来＞理想と現実を考える機会が訪れます。自分の信念を貫く行動をとることで周囲の理解を得ましょう。学びと熟考が必要とされます。＜キーワード＞修行。片思い。孤独。9。＜メッセージ＞まもなく学んだことを実践する時がやってきます。一夜漬けでなく日頃から修練しておきましょう。



＜近い未来＞芸術的センスに溢れているとき。遊びも仕事も充実したときを過ごせるでしょう。問題は解決に向かいます。他者への配慮が豊かさをもたらします。＜キーワード＞交渉成立。金星。母。結婚。3。＜メッセージ＞豊かさを分かち合う方法を考えること、社会での役割を担うことがテーマです。



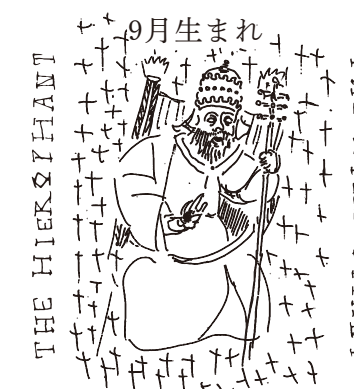
＜近い未来＞あなたの誠実な姿勢が周囲に輝くとき。環境活動に関わる可能性も。＜キーワード＞希望。信頼関係。きれいな水。17。＜メッセージ＞今取り組んでいることに真剣に力を注ぎましょう。将来のため、無理なく継続していける奉仕活動も大切です。心と体のケアをすることは自分を磨きます。



＜近い未来＞異業種、異分野の人と会う機会に恵まれます。人と人を繋ぐことであなたの役目が生かされます。活躍の場が広がるでしょう。＜キーワード＞水商売。三角関係。縁。杯。14。＜メッセージ＞コミュニケーションをとることはあなたを優位に立たせます。人との関係が作用するときです。



＜近い未来＞考えがまとまり先への展望が明確になってくときですが、行動を起こすタイミングはもう少し先です。今は身の回りの仕事をひとつひとつ丁寧に片付けていくことです。＜キーワード＞洞察。忍耐。ツリーハウス。12。＜メッセージ＞計画をたてましょう。ものごとを俯瞰してみることも大切です。



＜近い未来＞これまで人を頼ってもできなかったことを、自分で解決できるようになる兆しです。解決するための糸口を探してください。＜キーワード＞契約の延期、変更。ヒント。鍵。調停。5。＜メッセージ＞探し物はもう一度自分の身の回りを確認してみましょう。法的なことは早めに解決が安心です。



＜近い未来＞新たなものごとがはじまる予兆です。過去の自分を手放し、新しくはじまる自分の人生を受け取ってください。＜キーワード＞細かく砕く。破壊と再生。白と黒。13。＜メッセージ＞不要のものを処分して新しいものを受け入れる準備を整えると、すんなりと必要なものがやってきます。

特集 SPECIAL FEATURE

- 「1 仙客万来一人をなぎ場を創るそして仙台の文化」
[27頁]
- 「2 東北に生きる人とかたち」
[11頁]
- 「阿部順子 あべじゅんこ」
山形県寒河江市生まれ。デザイナー。東北芸術工科大学卒業後、デザイン会社数社を経て2017年よりフリーランスに。紙媒体を主とした広告デザイナー（ポスター・パンフレット・チラシ・パッケージVIなどの案件）携わっている。
- 「及川重子 おいかわけじ」
1982年宮城県気仙沼市生まれ。フリーライター・編集者。大学で建築を学んだのち、地元タウン情報誌の編集などを経て現在に至る。人に出会うこと、未知のものに出会うこと、そして旅と音楽が好き。かっこいい文章を書きます。
- 「ボシタカシ」
《星あがり》の名前で、主に国際誌のアートディレクションなどを手がける。昨年、高校卒業以来のリターン。奈良時代以前の東北に興味を持ち調査中。東京倶楽部のジニアス連中と、CI仕事などの経験アリ。ピンと来た方《あきんど》しませんか？
- 「3 仙台市だて悩んでいます。」
[37頁]
- 「工藤拓也 くるしんたや」
1982年仙台市生まれ。コピーライター。キャッチのような短いものから取材記事のような長いものまで書き、企画や編集も手ける。うれしいのは、ボディカラーがうまく書けたときと、小難しい話のおもしろさを伝えられたとき。
- 「白柳敦子 しらやなぎまきこ」
1987年茨城県生まれ。建築職の行政職員。いろんな人のしごとや暮らしぶりに触れてみたい。人やもの、ことを書いたフリーペーパーをつくっている。趣味はのんびりするこゝ、美味しいものを食べるこゝ。
- 「ふさむかかな」
デザイナー。Webサイト制作・印刷物のデザインなどを手がけている。きつくりとした内容を形にすることが得意。目指すは見た人が思わずニヤリとしてしまうようなものづくり。好きなものはパンとグッフィーラと眼鏡と髭。
- 「4 外国人の視点から地域と出会う」
MEET THE NEW LOCAL
[34頁]
- 「小林知博 ちやしとむろ」
1986年宮城県多賀城市生まれ。デザイナー。株式会社「ユニナ」所属。大学では建築を学び、集落の地域づくりに携わる。入社後は主に外国人向け広報物を担当。地域や企業の魅力を受け手に伝わるビジュアルに「翻訳」するデザインを心がけている。
- 「鈴木瑠理子 すずきるりこ」
1987年仙台市生まれ。編集者・ライター。書籍や冊子などの企画・編集を手がける。多様な分野・立場の人々の言葉を聞き、ともに制作テーマを深め、魅力あるものをつくることを目指している。趣味は映画鑑賞と料理。
- 「大林紅子 おおはやくんこ」
宮城県石巻市生まれ。仙台市内で働きながらライター業のスキルアップ中。「地域資源」や「人」に関する取材などを行っている。最近は石巻の地元新聞社と連携したアーカイブ活動のメンバーになりつつある。
- 「東北の力こぶ」
[28頁]
- 「工藤拓也」
宮城県生まれ。グラフィックデザイナー。小さい頃から絵を描くことが好きでデザインの道へ。小さい頃のワクワク感を持って仕事をしたいと思っている。現在、Webデザインも勉強中。趣味は居酒屋巡りとレクニク。
- 「他人のふんとして相撲をとる」
「風と花と」
「コンノケンジのお買い物」モノより思い出もいけど、モノにまつわる思い出
[55頁表3]
- 「菅野恵」
[54頁表3]

連載 SERIES

- 「カサマのマサカ」
[73頁]
- 「笠間建 かさまたける」
1977年仙台市生まれ。株式会社コミュニケーション取締役・マーケティング・ディレクター。地域産品の調査研究や商品展開の戦略策定を行う。手堅い経営理論を駆使するスタンダードが、全身で感じ、頭で考え、心で判断するがモットー。
- 「根間子 48 51頁巻裏」
- 「東北の力こぶ」
[28頁]
- 「工藤拓也」
宮城県生まれ。グラフィックデザイナー。小さい頃から絵を描くことが好きでデザインの道へ。小さい頃のワクワク感を持って仕事をしたいと思っている。現在、Webデザインも勉強中。趣味は居酒屋巡りとレクニク。
- 「他人のふんとして相撲をとる」
「風と花と」
「コンノケンジのお買い物」モノより思い出もいけど、モノにまつわる思い出
[55頁表3]
- 「菅野恵」
[54頁表3]

その他 OTHERS

- 「TAD GALLERY」
「僕が住む村ポクジョー村」
[46 | 47 | 56 | 57頁]
- 「松井健太郎」
「ROSEBUD TAROT READING」
[58 | 59頁]
- 「吉田勝信 よしたかつぶ」
1987年東京都生まれ。デザイナー。「民俗」の延長としてデザインを思考。家業（台所草木染め結工房）（仙台市のフランドリング、日用品のデザインなど多様な領域で）コンセプトメイキングとそのビジュアルスを行う。
- 「写真」
「4 | 38 | 40 | 44 | 48 | 51 | 56 | 57頁」
「嵯峨倫寛 さがみひろ」
1980年宮城県石巻市生まれ。写真家・フォトグラファー。広告分野を中心にフリーランスとして活動。「想像の幅」があることに写真の魅力を感じている。被写体からそれ以上のものを伝えることが、自分にとっての写真である。

とうほくあきんどでざいん 巻

- 「コトデザイナー」
「長内綾子 おさなひあやこ」
1976年北海道生まれ。Survivor主宰。本誌編集長代理。2011年11月、震災を機に仙台へ移住。現代美術とビジネスの両方の現場で、問いを立て、応答を引き出す場の設計、およびキュレーションを行っている。
- 「松井健太郎 まついいけんたろう」
1980年福島県生まれ。グラフィックデザイン事務所BLMU代表。エディトリアルデザイナー。建築プロダクト・グラフィックなど分野にとらわれないものづくりを中心に、地域とクリエイターを結ぶ活動も展開中。アシスタント
- 「深村千夏 ふかむらちか」
1984年宮城県石巻市生まれ。大手エスデサロン勤務。さまざまなボランティア活動への参加を経て、現職。フリーライターをサポートしつつ、TRUNKの受付業務を担う。年がら年中手が温かく、マッサージが得意。

コンノケンジのお買い物

低価格の商品を消耗するサイクルに飲まれ、物を手にいれることのステイタスすらかすんで見える昨今。私たちににとっての「お買い物」とはなんなのか？と立ち止まって考えるきっかけになる（かもしれない）、マイペースかつ実直な買い物通、コンノケンジの通販日記。

「モノより思い出、もいいけど、モノにまつわる思い出」



価格: \$30.00
送料: \$16.00
購入先: <http://www.earcave.com/>

デザイン/菅野恵

Tシャツでコミュニケーション。

インターネットのおかげで、世界中のあらゆるものが購入できる時代です。一方で、断捨離、シンプルライフも全盛のようです。そんなご時世に、物欲があるのは稀有とのごことで、私が買ったものを紹介する機会をいただきました。私はコレクションするという目的で買い物をしていません。そもそも単純に買うという行為が好きですし、通販の場合、商品が到着するまでの期間も気持ちを高めてくれるので、苦ではありません。買うかどうかの判断基準は持たなく、その時々気分です。

今回ご紹介するこのTシャツは、〈WORLD BUILDING〉というアメリカのダンスミュージックのレーベルのものです。イギリスのレーベル、The Trilogy Tapesのインスタグラムに投稿されていたのがきっかけで知りました。前面に大きくプリントされた、両手が地球をやさしく抱えているイラストを用いたロゴは、改めて見ると「世界構築」というその意味も相まって、環境保護系のカルトのような趣もあります。また、袖にプリントされている文字の書体、色にも味わい深いものを感じます。この「いらない」デザインが私の購入意欲を刺激し、さらにボディがMade in

USAのヘヴィーコットンであることが購入の決定打となりました。インターネットは本当に素晴らしいです。ワシントンDCのレコード店(EARCAGE)（素敵な店名だと思います）で注文すると、約2週間で郵便受けに突っ込まれていました。実際に手に取った印象は、洗濯するとプリントが馴染んでもっと「いなくて」なるだろうな、でした。サイズは、Mを購入しましたが身幅が若干狭いので、Lでもよかったかもしれません。

シンプルな無地のTシャツも好きですが、プリントTシャツは、着ている人の主義や主張を表現するひとつのメディアだと思っています。主義、主張だなんて、少し大袈裟ですね。格好つけました。これまでに、私の着ていたTシャツがきっかけで話しかけられることが何度もありました。興味がない人には全く伝わらないけれども、物好きな人には必要以上に伝わり、自分だけじゃないんだ、という共感から、思わず話しかけたいくなるのだと思います。楽しい経験です。中にはどこで買ったか聞かれ、その場でスマートフォンから注文する人もいました。その気持ち、分かります。ちなみに、この〈WORLD BUILDING〉のTシャツを着ている時に話しかけられたことは、まだありません。

【お知らせ】

クリエイター
募集説明会
開催!!

平成29^[2017]年度・冊子制作、 第2期協働クリエイター募集説明会開催!

とうほくあきんどでざいん塾は、平成29(2017)年度にフリーマガジン『とうほく あきんど でざいん』を年3回発行します。その名の通り、「とうほく」「あきんど」「でざいん」に関するテーマを幅広く扱うべく、現在は1号目となる夏号(8月上旬)を鋭意制作中です。

このたび2号目となる秋号の制作にあたり、記事の企画立案から入稿までの冊子制作に協働いただけるクリエイターを募集します。

こんな記事をつくりたい、あんなデザインにチャレンジしたい、といったアイデアをお持ちの方は大歓迎!まずは説明会へのご参加を、心よりお待ちしております。

概要

- 仙台市域在住のクリエイター*であれば、どなたでも応募可能(学生可)。ただし、TRUNKで隔週行われるミーティングに極力参加できる方に限ります。
- 制作謝金あり(額面は作業内容により応相談)
- 応募に際し、説明会への参加が必須です。必ずご予約のうえ、ご参加ください。

*ライター、エディター、カメラマン、デザイナー、イラストレーターなど、冊子制作に必須の職種

説明会 [要予約]

日時 2017年8月10日(火)19:00-20:30

会場 TRUNK | CREATIVE OFFICE SHARING

〒984-8651 仙台市若林区卸町2-15-2 卸町会館5F

内容 あきんど塾からの説明、質疑応答

予約 メールに、参加者の氏名・所属先・年齢・携帯電話番号・職種を明記のうえ、info@tohokuakindodesign.jp宛に送信してください。

持ち物 返却不要の過去実績がわかるポートフォリオ(A4サイズ5枚程度)

応募締切

2017年8月18日(金)18:00

応募からの流れ

8月10日(木) 説明会参加[必須]

8月18日(金) 応募用紙提出締切(応募用紙は説明会参加者にのみメールで送付)

8月23日(水) あきんど塾より結果の連絡

8月30日(木) 第一回編集会議

以降、隔週月曜日開催(19-21時)の公開ミーティング&制作を経て、秋号は11月中発行予定

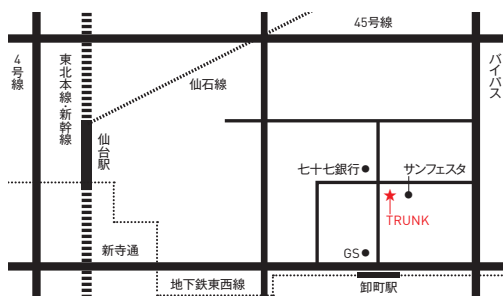
● 11月にも説明会を開催予定。詳細は確定次第、あきんど塾のwebサイトで告知します。

会場アクセス

TRUNK | CREATIVE OFFICE SHARING

〒984-8651 仙台市若林区卸町2-15-2 卸町会館5F

- 仙台市地下鉄東西線「卸町駅」下車、北1出口より徒歩6分
- お車の場合は、建物隣接のサンフェスタ駐車場をご利用ください



お問い合わせ

とうほくあきんどでざいん塾(担当:山口、深村)

〒984-8651 仙台市若林区卸町2-15-2 卸町会館5F TRUNK内

Tel: 022-235-2161(代表)/022-237-7232(直通)/Fax: 022-284-0864

E-mail: info@tohokuakindodesign.jp / http://tohokuakindodesign.jp

公開編集会議開催日程[基本は月曜19:00-、2週に1回ペース]

会場 TRUNK | CREATIVE OFFICE SHARING

日程 9月:11日、25日|10月:10日(火)、23日|11月:6日、20日

会議参加希望の方は、メールタイトルを「公開編集会議参加希望」とし、以下の内容をメール本文に明記のうえ、各開催日の前日までにinfo@tohokuakindodesign.jpまでメールを送信してください。

●氏名(ふりがな)/●参加を希望する日程/●職業

